青鞜

七月號

大正三年七月一日發行（毎月一回一日發行）第七號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

七月號目次

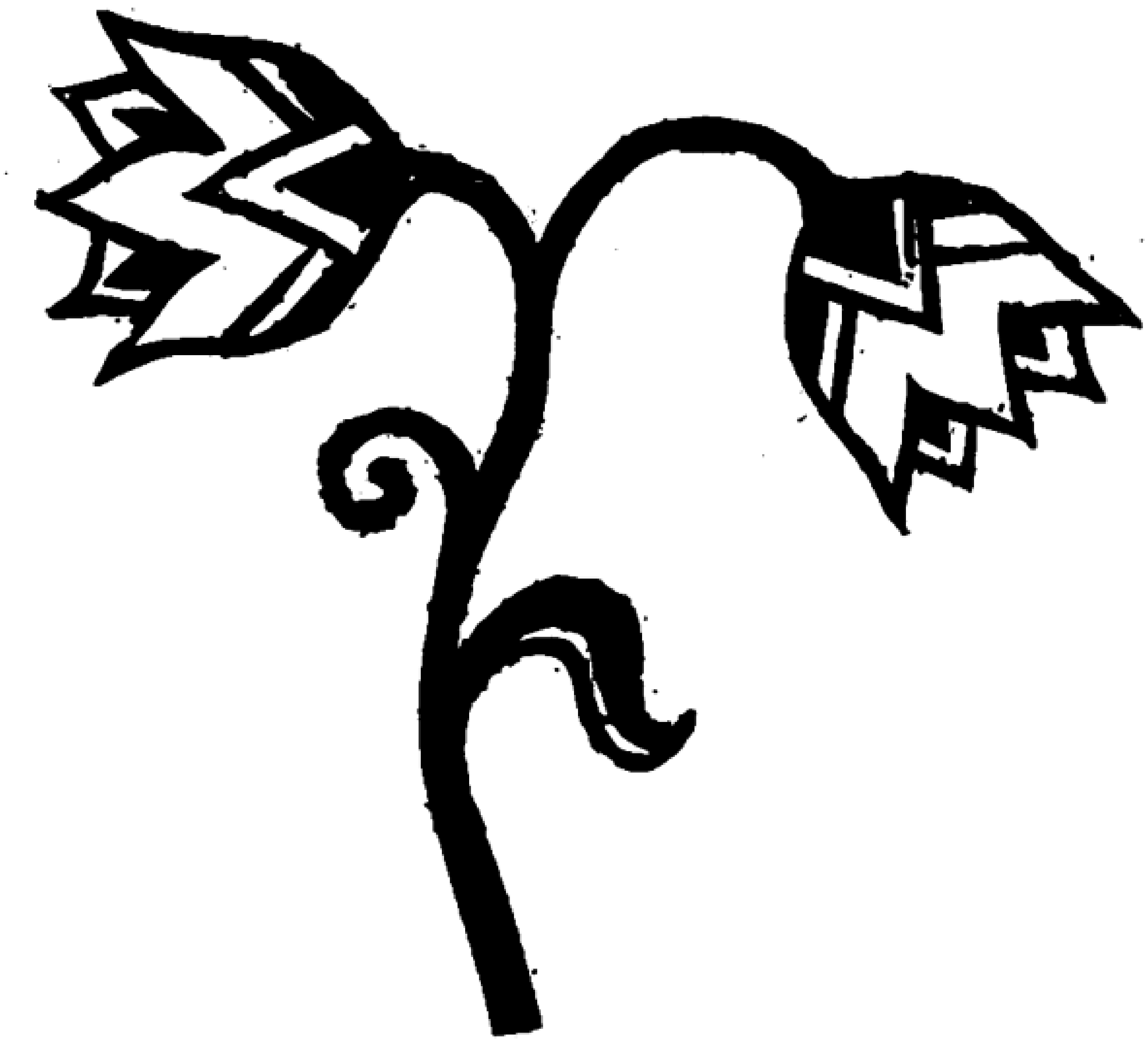
ソニヤ・コヴァレスキイの自傳……二……野上彌生子譯
ためらひ（歌）……四五……三ケ嶋葭
女ばかり（喜劇）……五四……小林哥津
戀愛の自由（評論）……八〇……エレン・ケイ
下田次郎氏に（感想）……九一……野枝
藝術家の秘密……オリーブ・シュライネル

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夏木立（歌）……………一〇七……矢澤孝
夏の花（歌）……………一〇八……齋賀琴
最近の感想
七日間の旅……………一〇九……らいてう
巣鴨村より……………一一四……岩野清
五月雨の日に……………一二五……みどり
編輯室より、其他
社と補助團規則

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER



男は女の名によつて人間を呪つてゐる、女は男の名によつて人間を呪つてゐる。共に其最も求めてゐる處に就いて最も不滿を懲へてゐるのだから面白い。女を罵る男の根本の要求は本當に愛して吳れる女を發見することにあるのであらう。男を罵る女の根本の要素は本當に愛して吳れる男を發見することにあるのであらう。僕と雖も本當に愛して吳れる女が欲しい。併し僕はそれよりも先に、自ら本當の男であり、人間でありたい。僕の根本要求が玆にあるが故に、僕は男を嫌ひ、人間を嫌ふのである。問題は他人にあらずして自己にある。女に在らずして男にある。本當に男となり人間となるに非れば假令眞正に愛して吳れる人があつても、僕にはその愛を甘受し、味解する資格がない。

淺ましきは男の要求に協はぬ女よりも寧ろ眞正に愛することを得ざる男である。——三太郞の日記

ソニヤ・コヴァレフスキィの自傳——野上彌生子譯

第八章　アニウタ

ラゼフスキィ家が田舎に住むようになつてから間もなく波蘭革命が起つて、パリビノもその影響を蒙りました。パリビノは露西亞とリスアニヤの境目になつてゐて、富裕な地主の大部分は皆波蘭人なのでありました。斯う云ふ人達は皆幾らかづゝ云ひがゝりをつけられました。財産を沒收せられたものもありました。殆んど皆んなが重い罰金を取られたのであります。自分の家を捨てゝ思ひきつて外國へ行つた人々も大勢ありました。その革命の成効した初めの年には、近邊に若い男と云つては誰一人ゐませんでした。たゞ子供や老人だけ殘されてゐたのであります。——自分の影にもびく〳〵してゐる哀れな不甲斐ない者ばかりでありました。その外には少數の官吏と商人と、一寸とした物持ちだけでありました。

こんな有樣ですからその田舎の生活がアニウタのような若い娘、ことに彼女は田舎で暮

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

らして初めて得られるような樂しみや遊戯を何一つ好でなかつたのですから、面白い筈はありませんでした。凡ての教育は彼女を社交界の明星にしようとばかりしたのでありました。六つの時から彼女はまだお父樣が現職に居た頃、兩親と一緒に住まつてゐた大きな町で、いつも子供舞踏會の女王となつてゐました。イヴァン・セルゲゼエヴィッチは娘の手柄を自慢してゐました。『今に見ろアニウタが宮廷へ上ると、早速皆んな太公連を引きつけて仕舞ふから。』とよく云つてゐました。勿論それはたゞ冗談でありましたが、不幸にも子供達、別けてもアニウタ自身はそれを本氣にしてゐました。

アニウタは脊のすらりと高い美くしい娘で、優雅な顔つきに綺麗な捲き毛をしてゐました。彼女は押しも押されもせぬ美人と云つていゝのであります。その上物越しに人の眞似られぬ魅力を持つてゐました。しようとさへ思へばどんな社交界でも左右して行けるのだと云ふ事は自分にも十分承知してゐたのでありました。斯んな有樣ですからパリビノの退屈な片田舍で埋れてゐるのが堪へられませんでした。

時々彼女は眼に涙を湛えながらお父樣のところへ行つて、斯んな田舍に自分を閉ぢこめて置くことの不平を申しました。初めはお父樣は笑つたり、冗談を云つたりしてゐましたが、それでも何度もこんな不平を繰り返されるので、現在の六ケ敷い事情の許では、地主

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

たるものは落ちぶれまいとするにはどうしてもその領地にゐなければならないのだと云つて聞かせました。斯う云はれるとアニウタは返す言葉もありませんでした。そんな譯で自分は面白い世を送れないのだ、而して二度と歸らぬ若い年を空しく費してゐるのだと計り思はれました。それ故もう默つたまゝ烈しく泣きました。

イヴァン・セルゲゼエヴィッチは年に一度、冬の間一月か又は六週間ほどその義弟と共に暮らさせるために、妻と姉娘とを聖ピエテルブルグへやる事になつてゐました。けれどもこの訪問は價の高いもので何にも役には立ちませんでした。斯う云ふ事をすればする丈けアニウタは滿足はしなくて、快樂に對する渴きを增すばかりでありました。眞面目な趣味などはこんな人達の動いてゐる周圍(サークル)では思ひもよらぬことでありました。而して何をしようと乘り氣になるような事もまだ見つかりませんでした。

都での五六週間は直ぐと立つて仕舞ひました。彼女はやつと面白くなりかけると、また都を離れて獨りぼつちになりて家へ歸らなければなりませんでした。家に歸つて過ぎし日の快樂を惜んだり、未來の勝利を夢見たりして日を暮らさねばなりませんでした。

その落付かぬ心に何かの仕事を見つけるために、アニウタは時々色んな道樂を初めました。その他の家族の人達もそんな事でもあると何もかもだれきつてゐる中に、幾らか活き

活きした事や變つた事が這入つて來るものですから、皆んな大抵アニウタのする事に一緒になりました。

けれどもターニャ以上の烈しい興味と同情を持つてアニウタについて行つたものは誰もありませんでした。ターニャはこの上もなくお姉さんを嘆美してゐたのでありました。でもその愛には自分が何事も似度い思ふような、非常に近い大事な身寄りの人に對して內々知らず〳〵の裡に感ずる嫉妬のようなものを交へてをりました。

アニウタが先づ一番に身をはめ込んだ性癖は小說を讀むことでありました。而して取り分け好きであつたのは、騎士の時代を書いた歷史小說でありました。斯んな小說は全くアニウタには一つの啓示でありました。彼女の生き〳〵した想像力は此不思議なロマンチックな世界に耽つて仕舞つてその考へを自分の身やその周圍に當て嵌めました。彼女は直ぐ自分は小說中の一女主人公で、パリピノは古い中世紀時代の城だと想像する事が出來ました。その手紙にはいつも『パリピノ城』よりとしてゐました。

これまで使つたことのない塔の上に一つの部屋がありました。アニウタはその塔の幾年かのほこりや蜘蛛の巣を掃除して、壁には古代の帷をかけたり、道具部屋から武器を持つて來て飾つたりいたしました。彼女はそれを自分獨りの住み家といたしました。ぴつたり

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

合つた白衣をつけたそのしなやかな姿と長い綺麗な髮は、中世紀の姫君として大層似合つてゐました。彼女はその塔の中に座つて枠の上によりかゝりながら、小珠や金絲で陣羽織に縫ひ取りをするのでありました。折々下の通りを見下ろしては夢の中の英雄を待ち受けました。

'Saoeur Anne, soer Anne, ne vois-tu rien venir ?
Je ne vois que la terre qui poudroit et l'herbe qui verdoit ?'

アン姉さま、アン姉さま、何か來るのが見えなくつて。
ほこりつぽい土と、青々した牧草ばかりですわ。

けれども心當ての騎士の代りに、巡査とかね收吏とか、パリピノへ家畜やホキスキイを買ひに出る年寄りの猶太人とかを見るばかりでありました。

とうと 'soeur Anne' は自分の英雄を待ち草臥れて仕舞ひました。而して彼女の小說的の發作はそれが初まつた時と同じく突然ぴつたり止みました。

或日ブルウァー・リットンの『ハロルド』と云ふ非常に感傷的な書物がアニウタの手に入りました。それは斯んな物語りでありました。

ヘースティングズの合戰にエディスは戀人なるハロルド王の亡骸を戰場の屍體の中から

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

見つけ出しました。(譯者註ハロルドは生粋の英國生れの王としては最後の人でありましたゴトウィン伯爵の第二子で一〇二二年に生れました。色々な政治的紛糾の中を通つた末、一〇六六年十月十四日ヘーステイングスに於けるウィリアム公爵との合戰で眼を射られで討死をしたのであります。エディスは白鳥の頸せるエディスと云つて彼の戀人であります)ハロルド王は討死する少し前に僞誓をしたことがあつて、悔い改める間のないうちに失せたのでありました。それがために彼の靈魂は永遠の懲罰を申渡されました。

その日からエディスの姿が見えなくなりました。誰一人その消息を聞いたものもなくて死んだようになつてゐました。幾年か過ぎてエディスの名は殆んど忘られてをりました。

けれども少し離れた海岸の、山々と淋しい森の間に、規則の嚴しいので聞えた一つの修道院がありました。その尼の中に決して物を言はぬ誓をしてゐる一人の尼があつて、慈悲深いために修道院ぢゆうの人々から尊敬されてをりました。尼は決してぢつと休んでるような事はありません。病氣を看護するとか、貧乏人を助けるとかしてゐない時にはお祈禱ばかりしてゐました。何處にでも死にかけてゐる人があると、きつとその寢臺の側にはこの尼がゐて、いつも閉ぢてゐる血の氣のない唇で、病人の額に別れの接吻を押しあてゝゐました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その尼は如何なる人なのか、又何處から來たものなのか誰も知つた人はありませんでした。二十年前まつ黒い外套にくるまつた一人の女がその修道院の門を叩きました。而して院長と長い秘密の面談をした後で、ずつと其處に留まつてゐるのでありました。今やその尼の臨終が參りました。凡ての尼達はみな死の床のまわりに集りました。

僧が這入つて參りました。その人は主から授けられた力でその死にかけてゐる尼の誓ひを許しました。而して彼女に勸めてその身は何人であるか、又心の重荷となつてゐる特別の罪は何であるか白狀させようといたしました。

尼はやつと寢床に起き上りました。長い間の沈默は唇を痲痺らして仕舞つて、物を云ふ能力を失つたかのようでありました。數分の間口は耳に入る響きは何んにも出なくて、たゞ痙攣るように動きました。けれども懺悔僧の命令に從つて彼女はやつと口がきけるようになりました。でも何年と云ふ間默つてゐたために、聲はうつろで不自然に響きました。

『私はエディスです。』と彼女は申しました。『殺された王、ハロルドの花嫁なのです。』

この呪はれた名を聞くと共に尼達は怖れに打たれて十字を切りました。けれども僧は申しました。『娘よ、お前がこの地上で愛した人は大變な罪人であつた。ハロルド王は教會から罪の云ひ渡しを受けたのだ。彼は決して宥される事は出來ぬ。――彼は永遠に地獄で燃

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

えてゐるのだ。併し神様はお前の長い間の贖償を御覽になつた。而してお前の悔い改めの涙を哀れに思召してゐられる。安心してお出で。天國では又他の神の花婿があるだらう。』

エディスの蠟のような頰はさつと紅くなりました。

『ハロルドがゐなければ私には天國は何んでもありません。』と彼女は叫びました。『もしハロルドにお許しが出ないのなら神様は私を天國にお召しになることは出來ません。』

尼達は怖れに打たれました。でも死にかけてゐる女は人間以上の力を見せました。彼女は寢床から出て十字架の前に跪まづきました。

『全能の御神よ。』と彼女は叫びました。『あなたの御子が何時間かの苦難を致した爲めにあなたは人類から罪の重荷をお取りになりました。併し私は二十年の間徐ろな痛ましい死の苦しみをいたしました。あなたは私の苦痛を御存じでございます。それを御覽になりました。もしそれ故に私を哀れと思召しますなら、ハロルドを御宥し下さいませ。私の亡くなります前にそのしるしを頂かせて下さいませ。――私共が御祈禱を唱へてゐます間に、その十字架の前に光りを御見せ下さいませ。さすればハロルドが救はれたものと心得ませう。』

僧は靜かに正しく主の御祈禱を唱へました。尼達は低い聲でその言葉を繰返しました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

人々は不仕合なエディスを深く哀れがつて、誰も自分の生命を犠牲にしてもハロルドの靈魂を救ひ度いと思ひました。エディスは床の上に横たはつてゐました。彼女の死の悶えが始まつたのであります。臨終の際のゆらめく生命は、耶蘇の御像をぢつと見つめてゐるその目の中に集まつてゐました。

光りはいつまでも燃えませんでした。

僧は祈禱が終ると、悲しげな調子でアーメンをつけ加へました。

奇蹟はありませんでした。ハロルドは宥されませんでした。

エディスの唇はかこち、呪ひました。而してその生命は失せて仕舞ひました。

此書物はアニウタの内的生活に一つの革命を劃しました。彼女は先づ自ら問うて見ました。『未來の生活と云ふものがあるのか知ら、それとも死んで仕舞へば萬事が終るのだろうか。二人の戀人は他界で逢つたり、お互ひに見知つたりする事が出來るのか知ら。』

彼女はこんな事を考へて見るのは自分が初めての人のように、その問題に熱中してゐました。この解決がつかなければ生きては行かれないような氣がいたしました。アニウタの心に起つた此劇變は、小さい妹にも響いて行きました。

日入り方の、美しい夏の夕暮れでありました。空氣はいゝ心持ちで、開いた窓からは薔薇や新らたに苅つた乾草の匂ひが這入りました。坪庭からは誰かの遠い聲だの家畜の鳴くのなど——田舍の夏の宵の空氣の中にある凡ての物の響が聞えました。ターニャはその時は十でありました。而して何もかも嬉しくつて堪まらぬような心持ちがしてゐました。彼女は一寸と女敎師の目を盗んで、姉さんはどうしてゐるのか知らと思つて塔の頂上へ駈け上りました。

するとアニウタは寢椅子の上に横はつたまゝ、薄れ行く日ざしの輝いてゐる髮毛をふり亂して胸も裂けん計りに泣いてゐました。

ターニャは死ぬほど喫驚して呼びました。『アニウタ、どうしたの。』

何んとも返事がありません。

アニウタは長い間默つてゐました。おしまひに彼女は申しました『お前はまだ小いから分りませんわ。私の泣くのはね自分の爲ぢやない、凡ての人間のために泣くのです。お前は子供だから斯んな眞面目な事は考へられませんよ。私も子供だつたの。でもね、此怖ろしい不思議な書物が人生の謎をずつと深く見せて吳れました。私はそれで私達の生きてゐる物がどんなに下らない嘘事かと云ふことが分つたのです。この上もない華かな幸福も、暖

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かい愛も——死んで仕舞へばそれまでなのです。あの世には何が私達を待つてゐるのでせう。——もし何かゞ待つてゐるとしたところで決して——私達には分りません。どうしても此處では分らないのです。何んて怖ろしいんでせう。』

彼女はまた涙にかき暮れて、小布團に頭を埋めました。

斯んな事は大人なら微笑むのでありませうが、ターニヤはアニウタの胸一杯になつてゐる深い考へに嚇されて、怖ろしさの餘り死んだようになつてゐました。その夕暮れの凡ての美は消えて仕舞ひました。ターニヤは自分が浮き〳〵してゐたのが、氣恥しく思はれました。

『だけども神樣がゐらつしやるんだもの、私達は死ぬと神樣のところへ行くんだわ。』ターニヤは反對しようといたしました。

アニウタは年寄つた、何も知り拔いた人のような、優しい控え目な微笑をしてターニヤの顏を見やりました。

『お前は淸い、罪のない信仰を持つてゐるのね、もうそんな話はよしませうよ。』と沈んだ調子で申しました。でもそれと共に自分の方がずつとうは手だと云ふような表情が見えたから、ターニヤは恥かしい思ひをいたしました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それから後はアニウタは凡ての世の中の快樂を打ち棄てたような風に、悲しい、でも落着いた氣分になつてゐました。死ねばそれつきりになつて仕舞ふなら、何を戀ひしたり、慕つたり、望んだりする必要があるでせう。

小説はもうお仕舞ひになりました。アニウタは小説を惡みました。彼女は『基督の模倣』を取りあげて、タマス・ア・ケンピス（譯者註タマス・ア・ケンピスは一三七九年に生れて、一四七一に死んだ佛蘭西の名僧で、"Imitation of Christ" は彼の有名な論文であります。）の例に倣つて、我身を責め、忍ぶ事によつてその懷疑を殺そうといたしました。

彼女は誰にも親切にしてやつて、云ひなりになつてゐました。けれどもターニャはお姉さんの顔に斯んな表情を見るのが悲しくなりました。

アニウタの敬虔な氣分は周圍の人達から尊敬せられてゐました。彼等は優しい心づかひをして、病身な者か又は大きな悲しみを持つてゐる者かなぞのように彼女を取り扱ひました。たゞ女教師だけは疑深く肩をすくめてゐました。お父さんはアニウタの事を『陰氣な空氣だ。』と稱して、からかつてゐました。けれどもアニウタはその冗談も靜かにぢつと辛抱してゐました。而して女教師にも丁寧に對してゐましたが、それが又アニウタのこれまでの圖々しさよりはずつと女教師を怒らせました。ターニャはお姉さんの斯んな風にして

ゐるのを見るのが情けなくて、自分にも何一つ面白い氣がしなくなりました。それと共に自分の淺薄なのが恥しくて、ひそかにアニウタの深い强い性格を羨やみました。

けれどもこの氣分も長くはありませんでした。九月五日のエレナ・パウロヴナの誕生日が近づいて參りました。これは盛大なお祝ひとして聞えてゐたのでありました。三十哩も先の四方から凡ての知人――百人計りの人々――がパリビノへ參りました。而して花火とか、活人畵とか、芝居とか云ふ何かの風變りな餘與がある事になつてゐたのであります。

エレナ・パウロヴナは大層芝居が好きで、自分でも中々旨い女優でありました。その年にはパリビノへ小さい舞臺が出來て、書割から、翼から、引幕等まで揃つてをりました。近所にも斯んな事を一緒にやられる上手な素人役者が幾らかありました。エレナ・パウロブナは餘り自分がその事に嵌まり込むのはよくないと思ひました。と云ふのはこんな舞臺を拵つたのも、一つぱし大きくなつたその娘のためにした事だと皆んなに思つて貰ひたかつたからでありました。れれにアニウタがそんな聖者めいた氣分に浸つてゐるのは寧ろ困り者でありました。それ故エレナはそろ〱と大事を取りながら近づいて來る祝典の事をほのめかし初めました。アニウタは直ぐとは承知いたしませんでした初めは非道く輕蔑をさへ見せました。『面倒臭いわ。何んだつてそんな事をしなきやならないんでせう。』それで

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

もおしまひには賺かし込まれた人のような風にして云ふ事をきゝました。

六ヶ敷いのは似合はしい芝居を見つけ出すことでありました。面白いと云つても餘り自由なものでなくて、大いした附屬物の要らぬものが欲しいのであります。終に佛蘭西の童謡喜劇(ヴオードヴィル)『Les oeufs de Perette』(『プレットの卵』)と極まりました。

アニウタが舞臺に立つのは、これが初めてゞ、元より彼女が一番重な役をするのでありました。で稽古が初まりました。アニウタは驚くべき伎倆を示めしました。

今や彼女の死の恐怖や、信仰と懐疑との煩悶や、不安な『先の世』に對する心配は突然消えて仕舞ひました。朝から晩までその美い聲で佛蘭西語の對句(カプレット)を謡ふのが家ぢゆうに聞えました。

エナレ・パウロヴナの誕生日が過ぎて仕舞ふとアニウタは又涙を取り返しました。でもその涙は今度は非常に違つた理由から流れ出る涙でありました。演劇學校へ這入り度いと云ふ熱心な願ひをお父様が許して下さらないから泣くのでありました。彼女は自分の一生の事業は女優となる事だと思ふようになつてゐました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

第九章　一人の虚無黨員

アニウタ・ラゼフスキィがそのロマンチックな遁世的の轉機（クリシース）を通つてゐた時には、露西亞の若い人々の群れは非常に違つた抱負や思想に捕へられてゐたのでありました。けれどもラゼフスキィ家は新思想の中心點よりはずつと隔たつてゐましたから、騷動の波がその平和な家に達するまでには大分かゝりました。いよ〳〵持ち上つた時には、アニウタは直ぐ樣その生贄となりました。

何時どうしてその新らしい精神がパリビノへ這入て來たか、中々分らないことであります。ラゼフスキィ家にその事が知れる前から、だん〳〵に醱酵して來たのであります。而してその靜かな家長生活の柱をぐら〳〵に覆したのであります。危險はたゞ一方のみから來たのではなく。至る處にあつたようであります。

一八六〇年代から七十年代までの間に、露西亞の凡ての智識ある仲間（サークル）は、ある大きな衝突――年寄りと若い者との內輪喧嘩を起したと云つていゝでありませう。親達と子供等とは、財產とかその他實用上の事件からではなくつて、重に議論や抽象的な問題から仲違ひをし

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てをりました。――『意見が一致しない。』と云ふのであります。たゞそれ丈けの事でありました。でも『たゞそれ丈け』で子供達に自分の子供を認めない家や親達を見棄てさせるには十分でありました。

家を出奔するのが流行になりました。取別け若い娘達の間に流行りました。幸ひとパリビノの直ぐ近所にはこんな事は起りませんでした。それでもある娘が外國で修業するとか、聖ピエテルブルグの虚無黨に加はるとかで家を出たと云ふ噂が彼處此處から傳はりました。

首府の内の何處かには親達や敎師の怖れてゐる或る不思議な團體が出來てゐるとの事でありました。而してその團體は若い娘達で自分の家を出度いと思ふ者を皆んな入れるのださうでありました。その若い男女の人々は全く同等の權利で其處に生活してゐると思はれてゐました。召使ひは一人も使ふ事はなりませんでした。お孃さん達が自分の手で床を研いたり、働いたりしなければならないのであります。勿論そんな噂を傳へた人にしたところで誰もその團體を見たのでもなければ、何處にあるのか、又警察もお構ひなしに存在せらるべきものかどうか分らないのでありましたが、それでもそんな團體のある事は誰も疑ひませんでした。

おひ〳〵とその時代の徴候がパリビノの直ぐ近所にも現はれ初めました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その教區の牧師のフィリップ長老には一人の息子があつて、從順なのと品行が正しいのとで兩親の悅び物になつてをりました。けれども神學校を優等で了はるや否や、この物靜かな素直な青年が突然手に負えぬ我儘息子になつて仕舞ひました。立派な生活が手に入るばかりになつてゐるのに、彼は聖職に就く事をきつぱり拒みました。監督まで呼び寄せて、心一つでは彼は一番富裕なある郡の教區牧師になれるのだからとほのめかして教會を離れないがいゝと云つて聞かせました。それは本統の事で、彼は先の牧師のどの娘かと結婚すればいゝのでありました。昔からの習慣でその教區は花嫁の婚資となつてゐたのであります。けれども斯んな心の引かるゝ餌にもその青年は釣り込まれませんでした。彼は餓死も同樣の自活をしなければならないのに、それでも聖ピエテルブルグへ行つて大學の學生となり度いと云ひ出しました。

氣の毒なフィリップ長老は息子の馬鹿を非道く零してゐました。でも息子が法律を修めるのなら、法律は實用的の見地から一番爲になる商賣でありますから、長老も大目に見たでありませう。でも青年は法律ではなくつて自然科學を撰びました。而して初めての休暇で歸つてゐる時には、人間は猿から進化したものだとか、ゼッエノフ教授の實驗に據ると靈魂と云ふものは無い、たゞ『反射運動』がある丈けだと云ふような狂氣じみた思想ばかり

になつてゐましたから、フィリップ長老は震え上りました。而して息子に聖水をふり蒔くような事までいたしました。

　これまでこの青年が休暇で歸つてゐた時は、屹度誕生日なぞにはパリビノへ來てラゼフスキィ家に御機嫌伺ひをしたものでありました。晩餐會の時にはいつも極つた一番末席の食卓について、話仲間にも入らず、たゞ御馳走ばかり食べてゐたのであります。

　けれども此夏は萬事が變つてゐました。今度の誕生日には彼はもう歸つてゐたのに姿を見せませんでしたから、それが非道く目立ちました。彼は他の日に出て參りました。取次ぎの者が何の御用事でと聞くと、將軍にお目にかゝりたいと答へました。

　イヴァン・セルゲゼエヴィッチはこの若い虛無黨員について色んな噂を聞いてゐました。而してこのアレクシイ・フィリッポヴィッチは誕生日に顔を出さなかつたのだなと云ふ事が、そんな下らない虛禮はどうでもいゝと云ふ風は見せてゐても、矢張り胸にありました。ところへその青年がわざ〳〵やつて來て、同格の者（原註露西亞の牧師はそれ丈で一階級を作つて、寧ろ低い社交上の位置に立つてゐました。彼等は普通は幾らか輕蔑されてゐました。）のように訪問したのが片腹痛く思はれましたから、一つたしなめてやろうと決心いたしました。それで召使ひに云ひつけて、『將軍樣が願ひの筋を聞くとか、事務上の打ち合せ

をなさるとかするのは午前の一時前であります。』と告げさせました。

忠實なイリヤはこの場合同じ思を抱いてゐましたから、將軍の仰しやる通りの旨を申し傳へました。けれどもそのお客樣は斯うきめつけられても一向平氣でゐました。而してたゞ『御主人へよろしく申上げて下さい。それから今日限り僕は決してのこの家には足を蹈み入れませんと云つて下さい。』と申しました。

イリヤはその口上を傳へました。誰にも思ひやれることで、これはラゼフスキイ家の內ばかりでなく、あたり近所の大評判になりました。

けれども一番惡かつたのはアニウタの振舞であります。斯う〳〵だつたと云ふことを聞きつけるや否や、彼女はまつ赤になつて上ぼせながらお父樣の部屋へ飛び込みました。而して『お父樣なぜアレキシイ・フィリッポヴィッチを怒らせなすつて。いけませんわ。正直な人をそんなにするなんて卑しいことですわ。』と叫びました。イヴァン・セルゲゼエヴィッチはぢつと娘を見詰めました。餘り喫驚したので、どう云つて娘のぶしつけな言葉に答へていゝか一寸と分らなかつたのでありました。アニウタは又かッとして仕舞つた後は威勢もなくなつて、急いで自分の部屋へ引つ込みました。

イヴァン・セルゲゼエヴィッチはやつと驚いた心も靜まつてその事をよく考へて見ると、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

娘の振舞をそう大げさにとらなくて冗談にして仕舞ふのが一番だと思ひました。それで御飯の時に、一人のお姫様が百姓の子供とお友達になつて、世の物笑ひになつたと云ふお話をして聞かせました。イヴァン・セルゲゼエヴィッチは冷嘲の名人で、子供は彼にあてこすられるのを恐がつてゐたものでありました。けれどもこの時にはアニウタは怒つたような、また切り込まれまいとするような顔つきを見せて、冷然と靜かにお父様の物語を聞いてゐました。アレキシイ・フィリッポヴィッチを侮辱した事に對してもつと笑つかゝつてやれと云ふ氣で、彼女はどうにかしてそのアレキシィに逢はうとし初めました。

馭者のスチーヴンはアニウタ樣がその青年と二人つきりで森の中を歩いてゐたのを見たと云つて召使ひ仲間を驚かしました。

『それを見てると頗る面白いのさ。アニウタ樣は下を向いたきりで默つたまゝ、時々日傘を上にやつたり下にやつたりして振つてゐなさる。その男が何か知ら手樣眞似で一生懸命に話しながら、拐杖の足で並んで行つてるところは——何がなしまあ鶴だねえ。そいからポケットから古つぱけのすり切れた書物を引つ張り出してさ、お孃樣に讀んで聞かせ初めたせ——何かお稽古でもしてやつてる圖だあね。』

確かに此青年はアニウタが夢見たような小說の王子や、中世紀の騎士には甚だ不似合で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ありました。その長い不恰好な身體つき、痩せた頸と青白い顏、赤い剛い髪毛、大きな無骨な手、拙い切り方をした爪――凡て斯んな者はその男を貴族的な習慣や趣味を持つた若い娘を迷はす主人公にする事は出來ませんでした。それ故その人に對するアニウタの興味は迚もロマンチックなものではなさそうでありました。彼女を引きつけたのは正しく他の或物なのでありました。

全くそれはその通りでありました。此青年は聖ピエテルブルグからまつ直ぐに來ました。而してそれと一緒に一番新らしい思想を持つて來たのであります。その上彼は幸運にもその時代の若い人々が熱狂的の讃美を以つて私淑してゐたツェルニシェーフスキイ・ドブロヨードフ、スレェプツェフと云ふような偉い人々を親しく見たのでありました。――たゞ少し離れてゐたゞけで實際に見たのであります。これはその人自身の人物に興味を持たせて引きつけさせるに十分でありました。其上アニウタは彼を通じて矢張りこれまで見た事もなかつた色々な書物を手に入れることが出來ました。パリビノで許されてゐるのは La Revue des deux Mondes とか、アセニアムだとかルシヤン、メッセンジャーと云ふような堅實な重味のある雜誌丈でありました。皆んなが望むまゝにイヴァン、セルゲゼエヴィッチも我を折つて、ドストエーフスキィの雜誌のエポカ the Epocha は取る事にしてありました

けれどもアニウタは今は非常に違つた種類の者が讀めるようになつて參りました。斯う云ふ雜誌は每號其時〳〵の大事件を考察してありました。其新たな友達は或時ヘルツェンの出してゐる禁令の週間新聞のコロコル Kolokol（鐘）を一號呉れた事さへありました。

その虛無黨員の說いた凡ての新思想に、輕々しく私淑したと云つてアニウタを咎めるのは間違つてゐます。その思想の多くは彼女に面を背けさせました。餘り極端な議論だと思つて、彼女は銳く非難したのであります。けれどもアレクシィの談話や、持つて來て呉れる書物がだん〳〵アニウタを押し進めて、日每に彼の意見に引き寄せられて行きました。

秋も深くなつた頃に、その靑年學生はお父さんとすつかり喧嘩をして追ひ出されました。次ぎの夏休みにも二度と歸つて來るなとまで云はれました。暫しの間に彼がアニウタの胸に蒔いた種は絕えず生長し、繁茂して行きました。

彼女のなり形は全く變つて仕舞ひました。白い襟のついた、飾りも何んにもない黑い着物を着て、髮には網をかけました。舞踊會とか、又それと同じような快樂は輕蔑を以て遇せられました。朝の內は貧乏な子供達を呼び入れて讀み書きを敎へました。道で百姓の女に出逢ふと、足を留めて優しく話しかけました。

最も目覺しい變化は、これまでは何によらず眞面目な勉强事を憎んでゐたアニウタが、

今度は六ケしい書物に氣違ひのようになつた事でありました。お小使ひを下らない無駄な裝飾品などに費す代りに、『人生生理學』、『文明史』と云ふような書物で書物棚を一杯に充たしました。

ある日彼女はお父様のところへ行つて、聖ピエテルブルグへ勉强にやつて下さるようにと願つてお父様を驚かしましました。イヴァン・セルゲゼエヴィッチはいつか彼女が都に住まはせて下さいと賴んだ時のように笑つて逸らそうといたしました。

けれども今度は彼女は中々逸らされませんでした。冗談を云つたり、あてこすつたりしても何んの利き目もありませんでした。お父様がどうしても領地にゐなければならないにしたところで、私までが、する事もなければ面白くもないこんな田舍に繫がれてゐる譯はありません、と何處までも熱心に云ひ張りました。

終にイヴァン・セルゲゼエヴィッチは、かつとして怒り出しました。『若い淑女の義務として誰に依らず結婚するまでは親達の膝許に居るべきものだと云ふ事が分らないのなら、わしはもうそんなやんちやな馬鹿者との議論で暇潰しはしない。』

アニウタにはもう幾ら云つても駄目だと分りました。でもその瞬間からお父様との間柄は非道く變つて仕舞つて、日増しにどちらも苦い鬱憤を持つようになりました。二人はた

や晩餐の時だけしか顔を合せませんでした。その時も双方口をきかないし、又利くとなると一言一句鋭い當てこすりを申しました。

全く此家族には今は深いしきりがありました。家庭女教師は新思想には烈しい反對者でありました。彼女はアニウタの事を虚無黨員だの、革新家（プログレシスト）だのと云つてゐました。その渾名がまたその人の口にかゝると取りわけ鋭い調子を持つてゐました。アニウタが我ともなく、自分はある大變な事を考へてゐるのだと話しますと、女教師は直ぐ惡い企計らみに取つて、アレックシイ・フィリッポヴィッチと結婚するためか、それともあの評判の惡い秘密團體に加入するために、家を飛び出すのぢやないかと疑りました。それで女教師は彼女を探偵しようとかゝりました。するとアニウタは疑ぐられてると思ふものですから一層その振舞ひや顔付をあいまいにしようとしました。

エレナ・パウロフナだけは何事が初まつてるのか氣もつかぬ風に見せかけてゐました。彼女は絶えず圓滿に取りなして皆んなを慰めようとしてゐました。

ターニャはその時十三でありましたが、家の内に播まつてゐる睨合ひは元より好くない感化を彼女に及ぼしたのでありました。女教師はペスト患者でもあるかのように、その虚無黨員から自分の敎へ子を庇ふことばかりにかゝつてゐました。この不斷の取締りはター

ニヤを怒らせました。ターニヤはアニウタの胸の中には新らたな、驚くべき興味が一杯あるのだと分つてゐたのでありました。それと共にどんなものなのかそれが分りたくて堪まりませんでした。一寸の隙にお姉さんの部屋へ駈け上つて見ますと、いつもお姉さんは書き物机に寄つてゐました。けれどもアニウタは何を書いてるのか決して話しませんでした。それと云ふも女教師から、しよつちゆう、自分だけ迷ひ込む計りでなく、ターニヤまで惡い事をさせようとすると云つて罵られたからであります。『ねえターニヤ、あちらへお出でなさいよ。』と彼女は申します。『マルヴィナ・ヤヤコヴレエヴナに此處で捕まると又騒ぎぢやありませんか。』それでターニヤは勉强室へ歸つて來ると、女教師へ辛く當つてやります。アニウタが何んにも話して呉れないのはこの人がいけないからでありました。それが日に〳〵六ケ敷くなつて來て、氣の毒な英國婦人はその敎へ子と一緒には暮らせなくなりました。

耳に挾んだ人の話なぞで、ターニヤは若い者が年長者に服從するのは時代後れな事だと云ふような意見を得たところでありますから、勿論敎訓なぞにも心からの尊敬が弱くなつてゐました。今では女敎師との喧嘩が毎日のように起りました。とうとおしまひに大變な修羅場があつた後で、マルヴィナ・ヤコヴレエヴナはもう自分はラセフスキイ家に留まる氣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はないと云ひきりました。

こんな嚇しはよく繰り返されてゐたのでありますから、ターニャは大して氣にしてもゐませんでした。けれどもこの時は眞劍になつて來ました。女教師はと云へば、餘りきつぱり云つたので、今更取り消す譯にも行かなくなつたし、他方では又皆んながいつも喧嘩や騷ぎばかりしてるのに飽き〳〵して、ターニャの兩親も、女教師が居なくなつたら家もずつと物靜かになるかも知れないと思つたから引き留めようともしなかつたのでありました。

けれども最後の瞬間までターニャは女教師が本統に行つて仕舞うとしてるのだとは信じませんでした。

第十章　家庭女教師去る　アニウタの著作

朝早くから廣間には大きな古風な箱が立つてゐます。その箱の上には籠、袋、小包に、それがなくては年配の婦人には旅行が出來ないと云ふような荷物の山が積み立てられてゐます。馬車は表に待つてゐます。召使ひ共はあちらこちら馳け廻つてゐます。たゞお父樣附きのイリヤのみは壁によりかゝつたまゝ身動きもせず立つてゐます。彼の凡ての態度に

は幾らか輕蔑を現はしてゐました。彼はこんな下らない事に騷ぎ立てる必要はなかつたのであります。

家ぢゆうの人達は食堂へ集まりました。昔からの風に倣つてイヴァン・セルゲゼエヴィッチは皆んなに坐つて呉れと申しました。旦那樣と奥樣は上坐に着きました。召使達は遙かの隅に一杯になつて、畏まつてめいめいの椅子の端に坐りました。數分の間森としてゐました。いよいよお別れとなつて、誰も幾らかづゝ感じの深い、眞面目な氣持ちになつてゐました。

終に將軍は起立の合圖をいたしました。彼が進んで行つて、聖像の前で十字を切ると皆んなそれに倣ひました。それがすむと最後の抱擁をしたり、別れの涙を流したりしました。

ターニャは女教師をぢつと見つめてゐますと、その人に對する感情が突然變つて仕舞ひました。その強い女が年寄つて、疲れ果てゝ見えました。どんな小さい罪咎でも見逃がさいと云ふので、子供達が『雷樣』と呼んでゐたその眼も、今は赤く脹れ上つて、涙が一杯にたまつてゐました。唇はぶるぶる震えてゐました。ターニャはその時初めて今までになく彼女をあはれに思ひました。マルヴィナは長い間ターニャを抱き締めて、思ひも依らず優しく接吻いたしました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『私のことを忘れないで下さい。直ぐと手紙を頂戴な長年一緒に暮らしたお子さんとお別れするのは全く悲しい事でございます。』女教師は涙に咽びました。

するとターニャは彼女に取り縋つて大聲をあげて泣き出しました。胸はづき〳〵痛みました。女教師を失くしたのは全く取り返しつかぬ事で、これから先はもう何もかも滅茶苦茶になるような氣がしました。それと共に氣も咎めました。女教師の束縛がなくなるのだと思つて悦んでゐたその朝の心持ちを思ふと、恥かしくなりました。『それは私の身好みなのだ。あの人は私を一人ぼつちにして行つて仕舞ふのだもの。私は悲しくてならない。私はマルヴィナに居て貰へるやうにすればよかつた。』ターニャはこう一人言を云つて、放れられませんでした。

とうと女教師は馬車に乗りましたから、ターニャは二階の角の部屋へ駆け登つて、領地から往還へ續いてゐる白樺の長い並樹を見下ろしました。彼女は窓に顔を押しつけて、馬車の分らなくなるまで見送りました。自分が惡かつたと計り思はれました。『あの人は私を愛して呉れたのだ。私も好きなのだと分りさへすればあの人は居て呉れたのだ。今ぢやもう誰も私に取り合つて呉れる人はない。誰もない。』彼女はこう考えて、又新らしく涙を流し初めました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『マルヴィナのことで泣いてるの。』と弟は走りがゝりに尋ねました。而して喫驚して、分らないと云ふ風でありました。『フェディヤ、打つちやつてお置きなさいよ。いゝんだから』ある叔母さんの斯う云のが聞えました。これはお父様の妹でありましたが、子供達はこの人は嘘吐きだと考へたので、皆んなが嫌ひでありました。ターニャはこの叔母さんから慰めて貰はうとは思ひませんでした。それで叔母さんが優しく肩を叩いて呉れた手をもどかしそうに逸ねのけて勉强室へ駈け込みました。けれどもがらんとしてゐるのを見ると又烈しく泣き入りました。おしまひに今はもう好きなほどお姉さんのところへゐても、誰もそうさせまいとする人はないのだと思ふと、幾らか氣分が晴れました。それでアニウタはどうしてゐるのか知らと思つて駈け出しました。

彼女は何か屹度ひどく亢奮した事があるらしく一心に廣い部屋を行つたり來たりしてゐました。ターニャは今までの經驗でこんな時には中々お姉さんの氣を引きつける事の六ケしいのが分つてゐました。でも暫く待つて見てもどかしくなつたから呼びかけました。

『アニウタ、私悲しいのよ、何か讀む書物を貸して頂戴な。』彼女は訴へるような聲で申しました。返事がありません。『アニウタ、何を考へてゐるの。』ターニャはとうと申しました

『一寸とお留まりなさいね、私がゐるんだもの。』

『あなたはまだ〳〵こんなことを聞くには若すぎますよ。』と輕蔑した返事であります。

けれどもこれは少しよくありませんでした。ターニャはとうと腹を立てました。『なんて不親切な人だろう。私とは話もしたくないのね。マルヴィナは行つて仕舞つたし、私たちはほんとゝにいゝお友達だと思つたのに。でも追ひやるなら行くわ、そして二度ともう決して、決して、あなたを愛しやしないわ。』

ターニャは涙を呑みやがら駈け出しました。――けれども突然お姉さんは呼び戻しました。本統のところはアニウタは自分の胸一杯になつてゐる物を皆んな出して仕舞ひ度くて溜らないのでありました。それに他には誰もありませんから、せめてターニャと話すより他はないのであります。

『ねえ』と彼女は申しました。『何處までも默つてると約束すれば、私大事な秘密を話してあげてよ。』

ターニャの涙は直ぐと留まりました。無念な思ひも立ちどころに消えました。默つてると誓つたのも勿論の事で、お姉さんは何を話そうとするのか知らと思つて、ひどく好奇心を持つてゐました。

『私の部屋にお出でなさいよ。』アニウタはきつとして申しました。『何か見せてあげるわ――あなたの思ひもよらぬ物よ。』

彼女はターニャを部屋に連れて行きました。而して大切な書類の仕舞つてある古い書き物机に連れて行きました。それからそつと大事そうに一つの抽斗を引き出して、赤い判でEpocha と押してある大きな事務用の封筒を取り出しました。それはニキティッナ・クシーニン孃(これはアニウタを崇拜してゐる女中頭で、アニウタの爲めにはどんな事も仕兼ねないのであります)へ宛てゝありました。でもアニウタはその大きな封筒の中から、『アンナ・イヴァノヴナ・ラゼフスキィ孃』と宛名を書いた小さい封筒を出しました。而して大膽なしつかりした手跡で書いてある一つの手紙をターニャに開けて見せました。その手紙は次ぎのように書いてありました。

『Most Honoured Miss Anna Ivanovna―― あなた の親切な思ひを籠め た御手紙に非常に感じましたので、私は直ちにあなたの物語を讀んで見ました。

私はひそかに疑懼を抱いてそれを讀み初めた事を白狀いたします。私共記者はよくその處女作を私共に審判さして呉れる若い初心者の幻影を挫くことの悲しい務めを持つてゐます。あなたの場合ではこの務めが私には取り分け苦痛に思はれました。けれどもだん／＼

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

讀んで行くうちに私の心配は失くなりました。而してあの物語の全篇に息づいてゐる若々しい清新と曖昧と誠實な感情とにすつかり俘にせられて仕舞ひました。そんなもので餘り感動させられてあなた最負になつてゐますから、斯う夢中になつてゐては、「えらい閨秀作家になれませうか」と云ふあなたの御質問に、正しい確實な御返答をするのはまだ六ケしそうだと恐れてゐるほどであります。

只今では、私は非常に悅んで次號の雜誌にあなたの物語を出すと云ふ事だけは申せるのです。あなたの御質問の返答としては私はたゞ斯う申します。書いて働け――その他の事は時がして吳れます。

あなたの物語はある點には餘り純朴すぎる事と、完結のついてゐない事と、それから――私の飾らぬ心をお許し下さい――文法の過ちのある事を拒む譯には行きません。でもこんな缺點は微細な事であります。少し辛抱してやれば旨くなるでせう。一般の印象はたしかに好い方であります。

それで、私は繰返して申します。お書きなさい、お書きなさい！　もし機會があつて何かあなた御自分の事とか、年齡とか周圍とかを話して下されるなら、私は非常に興味深く覺えるであります。これは皆んなあなたの技倆を判斷するに大層役立つて吳れるでせう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

――あなたのいとも誠實なる　ドストエーフスキイ』

ターニャ茫然として仕舞ひました。その文字が眼の前で踊り廻りました。ドストエーフスキイの名は知り抜いてゐました。お父樣との議論の時にはよくその名を云つたものであります。彼は最も卓越した露西亞作家の一人だと云つてゐます。でもその人がどうしてアニウタに手紙を呉れると云ふような事が出來られたでせう。一體これはどうしたと云ふのでせう。一瞬の間これはアニウタが冗談をしてるのではないかと云ふ思ひが胸に閃めきました。喫驚したまゝ啞のようになつてアニウタを見詰めてゐますと、アニウタは又それを何處までも嬉しがりました。

『ね、ねえ。』彼女はとうと叫びました。嬉しさが一杯で聲は震えてゐました。『私ね、物語を一つ書いて誰にも默つたまゝドストエーフスキイに送つたのよ。あの人が認めたのねえ、そしてあの人の雜誌に取つたのよ。それで私の秘密の夢が遂げられたのだ。――私は關秀作家なのよ。』

ターニャは何と云つてその嬉しいことや喫驚したことを云ひ現はしていゝか分りませんでした。二人の姉妹はひしと抱き合ひました。而して涙の眼で微笑んで色んな他愛もない

事を囁き交はしました。

勿論アニウタのこの手柄を誰か他の人へ話すなどは思ひもよらぬ事であります。お母様は非常に喫驚するでありませう。而して何もかもお父様へ打ち明けるでありませう。お父様の眼にはアニウタのそのやり方は模ひもない罪惡となるであります。イヴァン・セルゲゼエヴィッチは閨秀作家達が大嫌ひなんて、あゝ云ふ人達は文學には何んにも關係のない放逸だけが出來るのだと考へてゐました。それが閨秀作家のお父様たらねばならぬと云ふのは、運命の非常な皮肉でありました。

その話によればお父は閨秀作家(ブリユーストッキング)をたつた一人知つてゐました。ロストプッチェン伯爵夫人(偉い女詩人)であります。お父様がモスクワでその女に逢つた時には、華やかな優れた美人で、若い貴族達を皆んなその足下に跪まづかせてゐました。お父様もその一人だつたのでありました。ずつと後年大陸でまた彼女を見ました。その時はバアデン・バアデンの賭博臺の前でありました。『私は自分の眼を信じられなかつた。』この話をする時にはイヴァン・セルゲゼエウィッチは斯く云ふのがきまりでありました。『伯爵夫人が一と群れの浮浪人(バガボンド)共を引き連れて、さも親しさうに話したり冗談を云つたりして這入つて來たのだからね。それから賭博臺のところへ行つて後から後からと金貨を賭けた。眼はきら〳〵してる、顏は

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

まつ赤になつて、髮毛もくしや〱に亂れてゐる。一文殘らずはたいて仕舞ふと、まわりを見廻して、附いてる者共に斯う叫ぶんだ。「Eh bien, messieurs, je suis vidée! Rien ne va plus!——さあシャンペンでも飲んで鬱晴らしをしませうよ。」

『ペンとインクを取る女たちのなれの果ては斯うしたものだ。』

こんな譯からアニウタは、自然その文學上の成功をお父樣に話し度くはありませんでした。けれどもその內證と云ふ事が、彼女の新らたな經歷の初舞臺に特別の魅力を添へました。而して我々は一二週間後のEpochaにズウリー！オルブヨーロフ(アニウタの選んだ雅號)作として『夢』と云ふその物語が公にせられた時の二人の姉妹の悅びを想像する事が出來ます。

物語の女主人公はアニウタ自身のような若い娘で、矢張り同じような事情と周圍の裡に敎育せられたのでありました。男の主人公は近代のタイプの若い學生で、ある晚の會見で、その人は女の胸に深い印象を殘しました。けれども偏見や因習に妨げられて、女はその思ひを深くすることが出來ませんでした。青年は行つて仕舞ひました。暫くたつた後で、その人は夢の中に現はれて、幸福な未來の美しい幻影を女に示しました。見ると自分はその人の側に在つて、盛んな生き甲斐のある生活を送つてゐるのでありました。その時その人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は『これは皆んなあなたの失くしたものだ。』と云つて消へて仕舞ひました。女は目が覺めると行つてあの友達を探そうと決心します。色んな艱難辛苦の後にその人が住んでゐた家を見つけ出しました。けれども此處でその人の友達から、尋ねる人は二三日前窒扶斯熱で亡くなつたと聞きました。また囈語にその人は若い娘の事を云ふ事があつたと聞きました。

リ、エンカ(その若い娘)は家に歸つたけれども、どこに行つてゐたのか誰にも分りませんでした。女は自分の過ちのために自分の幸福をふり捨てたのだと思ひつめて、間もなくその悲しみのために亡くなりました。

アニウタは初めの成効に勢を得て、直ぐと又一つの新らしい物語を初めました。而して一二週間の内に書き上げました。ドストエーフスキイは初めのよりもずつと褒めました。彼は前よりも圓熟したと思ひました。

けれども今度の筋道も旨く參りませんでした。ドストエーフスキイからの手紙がイヴァン・セルゲゼエヴィッチの手に入つて大騷動が破裂いたしました。

これはラゼフスキイの家の紀念日たる九月五日の事でありました。エレナ・パウロフナの誕生日でしたから、澤山なお友達仲間が集まつてゐました。この日は丁度週間郵便がパリ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ビノへ屆く日でありました。例の女中頭は、自分の名でアニウタが文通をしてゐますので、いつも配達夫のところへ出掛けて行つて、郵便物の袋が將軍へ屆かないうちに自分の名宛の手紙を取り出す事になつてゐたのでありました。けれどもこの日はお客事で忙がしかつたのと、郵便を持つて來る事になつてゐた人が奥樣のお誕生日を祝つてしたゝか醉拂つて仕舞つたものですから、代りに男の子を寄越すような仕儀となりました。それにその秘密郵便に就いての手配りは何人にも知らなかつたのでありました。こんな譯で手紙はまつ直ぐに將軍の手に落ちました。

イヴァン・セルゲゼエヴィッチの目にまつ先に入つたのは、女中頭へあてたEpochaの印の押した書留郵便でありました。これは一體どうした事でせう。將軍は女中頭を呼びにやつて、自分の前でその手紙を開くようにと云ひつけました。

あなたは想像が出來ますか——否え、それから引き起つた騷動を想像する事は迚も出來ますまい。それに一番惡い事がありました。この手紙でドストエーフスキイは二篇の物語の報酬——三十留ばかりを送つて來たのでありました。自分の娘が見も知らぬ紳士から金錢を受けたと云ふのは、將軍に取つては如何にも羞づべき不快な事で、それがために突然烈しい病氣になつたほどでありました。彼は心臟病と、膽石病に苦んでゐまして、お醫者樣

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は强い感動が一番いけない、それがあると危いかも知れぬと云つてゐたのでありました。それ故家ぢゆうの人々もこんな大詰めを怖がつてゐたのであります。さてこの恐ろしい激動の結果はどうなつたでありませう。お客樣の皆んなゐらつしやる前であります。それに此度は近くの要塞から士官がすつかり見えて、大人數になつてゐます上に、一緒に軍樂隊まで連れて來たのであります。

晩餐はずつと前にすんで、若い人達は舞踏の支度をしてゐました。アニウタは皆んなに笑みかけて愛嬌よくしてゐました。この舞踏會の女王は自分だと思つて、これから先の勝利を見越して悦んでゐました。

人々は將軍が見えたら初めようと思つてそれ計りを待つてゐました。ところへ突然一人の召使ひがエレナ・パウロフナのところへ急いで來て、旦那樣がお惡くてゐらつしやるから、お書齋へ入らして下さるようにと申しました。皆んな不安でありました。エレナ・パウロフナが見えなくなると、彈奏を初めるばかりにしてゐた樂人達は、待つようにと命ぜられました。

半時間ばかりたつとお客樣方は氣がゝりになつて來ました。とうとエレナ・パウロヴナは歸つて參りました。高ぶつた感情に顏を赤くしながらも、微笑んで何氣ない風をしてゐま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。人々の氣遣はしい質問に答へては、イヴアシ・セルゲゼエヴィッチは少し加減が惡いから御免を蒙り度いと申しました。彼は遠慮なく舞踏の初められるのを望みました。

それで舞踏會が初まりました。

アニウタはお母樣の方をおづ〳〵見やつて、どんな恐ろしい事が出來たのかその眼で讀まうといたしました。一寸した隙に隅つに連れて行つて、如何したのか話して下さいと頼みました。

『お前は何をしたの。皆んな分つちまひましたよ、お父樣はドストエーフスキイの手紙を御覽になつて、面目ないやら、腹が立つやらで死にそうになつてゐらつしやるよ。』哀れなエレナ・パヴロウナは涙を抑えようとしてもその甲斐もありませんでした。

アニウタは死んだようにまつ青になりました。でもお母樣は急いで云ひ添へました。『後生だから確かりしてお出でな。お客樣がゐらつしやるんですよ。こんな事が耳に入つていい氣がなさるものかね。さあ續けて踊りなさいよ――何氣ない風にね。』

それでお母樣と娘は夜ぢゆう踊り通しましたが、お客樣が歸つて仕舞ふや否や大騷動が待つてゐるのだと思ふと、二人とも殆んど消え入るほど怖ろしい氣がしました。

それは全く大變な事でありました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

イヴァン・セルゲゼエヴィッチは、部屋に鍵を下ろして、何人をも這入らせませんでした。休息の間にエレナ・パウロウナとアニウタは戸の側に行つてぢつと聞き耳を立てました。而してひどく惡いのかも知れないと思つて、恐ろしい不安のまゝお客様の方へ歸つて來ました。

家の中が靜まるととうと彼はアニウタを呼びました。その怒りの爆發は怖ろしいものでありました。

お父様の云つた言葉の中に、永遠に彼女の記憶に刻みつけられた一言がありました。

『知らない男と手紙のやり取りをしたり、親達にも内證でその人から金を貰つたりされる若い娘には、どんな注文でも出來る。今はお前の仕事を賣つたのだ。併しいつかはお前の身體を賣らないとも限らない。』

哀れなアニウタはこの怖ろしい言葉にたぢろぎました。本氣で云つてるのではないと思はれましたが、お父様は何處までも自信を以つて話しました。怒つてると同時に悲しそうな顔つきで、眼中に非常な權威を以つてゐますから、アニウタも一寸とは苦しい疑ひに捕へられたほどでありました。彼女は自分を誑つたのでせうか。それとも知らず何か非道い不作法な事をしたのでせうか。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

例に依つてこんな内輪揉めのあつた後は、皆んなが寛いだ顔をしてゐました。召使ひ達は直ぐとその事を知つて仕舞ひました。イリヤは天晴れな癖となつてゐる例の立ち聽きをしたのでありました。彼はイヴァン・セルゲゼエウィッチとアニウタの話をすつかり洩れ聞いて、彼一流の調子で説明しました。

すると勿論その面白い消息は大げさな事になつて近所近邊に傳はつて、長い間みんなの評判になつてゐました。

けれどもだん〳〵と騷動は靜まりました。ラゼフスキィ家には露西亞の家族によくあり勝ちな一つの現象が見え出しました。――子供達が先づお母樣を手初めとして、親達を敎育したのであります。

將軍と子供達のごた〴〵には、エレナ・パウロウナは初めは何處までも良人の味方でありました。彼が突然病氣になつたのに喫驚して、アニウタがこんな悲しみをさせたのを非道く怒つたのでありました。時々彼女は娘のところへ行つては、說き勸めるやうな調子で申します。『ねえ、アニウタや、お父樣の云ふことをお聞きなさいよ。もう決して書きませんと約束なさいね。又何か他にする事を見つけられますよ。私も若い時にヴァイオリンが稽古し度いと思つた事がありましたがね、それは殺風景なもので貴女(レデイ)のすべき事ぢやないと

云ふんで、お父様のお許が出ません。それでどうしたと思つて。元より私は意固地な事は云ひません。その代りに唱歌を教はる事にしましたわ。お前だつてそんな怖ろしい文學なんか止めちまつて、何か他の事をする譯には行かないかね。』

けれども幾ら云つて見ても駄目で、アニウタは沈んで痛ましい顔つきをして、何處までもやつて行く積りなのだと分ると可愛想になりかけました。それにお母様はアニウタの物語を讀んで見度いような好奇心もあるし、自分の娘が閨秀作家だと思ふと幾らか自慢らしい氣もするのでありました。

斯んな譯でだん／＼アニウタの味方になつて來ましたから、イヴァンセルゲゼエヴィッチはとうと自分は一人ぼつちになつた事が分りました。

初めかあッと怒つた時に、彼はアニウタに二度と決して書かない誓ひをさせようとしました。それさへすれば許す事にしたのであります。アニウタは元よりこんな約束をする事は出來ませんでした。それ故親子は五六日の間どちらからも口も聞かず、アニウタは晩餐に出て來もしませんでした。エレナ・パウロウナはその間を取りなしてゐました。

とうとイヴァン・セルゲゼエウィッチは、非常な讓歩をして、アニウタの物語を聞く事になりました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

此朗讀は皆んな家の人達の集まつてゐる面前で行はれました。アニウタはこれこそ大事な時だと思ひつめてゐますから、感情に震える聲で讀みました。

女主人公の運命がよくその作家の運命に似てゐましたから誰も胸を打たれました。イヴアン・セルゲゼエヴィッチは默つたまゝ耳傾けました。けれどもアニウタは最後の頁に來るとリ、エンが死ぬところで自分の失くした青春を歎くと、彼女の聲は咽び泣きを忍ぶので震えました。お父樣の目には一杯に涙が溜まりました。彼は無言のまゝ立ち上つてその部屋を出て行きました。その物語についてはアニウタに何んとも云ひはしませんでしたが、でも大層優しくしてやりましたから、皆んなこれはアニウタの目的が叶つたのだと分りました。

その日から家の内には優しさと和解の氣分が現はれかけたようでありました。その一番の重なしるしは、イヴァン・セルゲゼエウィッチが初め立腹した時に暇を出した女中頭を、親切に今まで通りゐてもいゝと許した事でありました。

その次ぎのお許しはずつと喫驚するほどの事でありました。イヴァン・セルゲゼエウィッチはアニウタにドストエーフスキイと文通をしてもよろしいと申しました。たゞその手紙を一應お父樣に見せさへすればいゝのでありました。尙その上アニウタ達が近々に聖ピエテルブルクへ行つてる間に、ドストエーフスキーと近づきになれると約束いたしました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

妻と娘が都へ行つた時には、將軍は田舍へ殘つてゐるのが極りで、ターニャも女教師の監督を受けてゐましたから、矢張り殘つてゐたのでありました。けれどもマルヴィナ・ヤコヴレエフナが居なくなつて、その後に來た瑞西人は、來て間もなくなのでまだ委せ切るわけに行きませんでしたから、エレナ・パウロフナは一緒に連れて行く事にしましたので、ターニャは大悦びでありました。

此旅行は大抵正月にしますので、橇に都合のよい頃でありました。人々は四十哩ばかり二輪馬車で行つたり、二十四時間汽車に乘つたりしなければなりませんでした。此旅行の事で勝手の方は大變な支度でありました。

何と云ふ驚くべき旅行だつたでせう。——行くも〳〵果てもない深い森の中で、變化と云つてはたゞ冬の間廣い野の原のように見ゆる湖が澤山あるばかりであります。ターニャにはその旅行は幼年時代の最光彩ある記憶の一つとして留まつてゐます。

ためらひ——三ケ島 葭——

おのれさへべつべつなりやあな寂し心しづみて涙流るる

みづからをののしることのおろかしさ止まねどもまづ人を憚る

そのこころそのことわりのあきらかさうとまるるにもまさりて寂し

あさましき女とたえずみづからを思ひもあへず寂しくなりぬ

さびしくも敬ふことのまさる日は君を失ふ心地こそすれ

はてもなくおのれの前にひろがれる君が心はとらへがたかり

われ君に求むるのほか無かりけり心水なすしづけささへ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

逢はずともよきにあらずやうれしくもかく言ひてまで試みたまふ
ありしにもまさる悲しき夢ながらなほまさゆめの心地こそすれ
あさゆふのいぶせきことにまぎれゐてつねに心の遊ぶかなしさ
みづからを失ひもえずけふもまた我は我にて遊ぶさびしさ
逢ひし時おほかた君に失ひしわがををしさは問ひなたまひそ
心にて思ふばかりのなほざりさ恕されぬこそたのみなりけれ
うつけたる心をまれに用ふればわがなすことはことさらめきぬ
われ悲し君を戀ひなば死なむこの命をかけてなすことも無し
おのれまづ君をあはれむ月無ければ陰府にさまよふ心地こそすれ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おもひやる心はあらじその人はやがて我なる悲しさに泣く
みづからを破る力も失せにけむわが涙にもとらはれて泣く
道無しとのたまひたるをまことかと今も思へる悲しき女
恨をも述べえずあはれとく老いてとく死なましとひとりごと言ふ
悲しかり人の心のはかなきももとづくところ我と思へば
みな我にもとづくといふあはれなる我を砕きて恨みそめんか
ためらひに終る心のさびしさに落つるも君によれる涙ぞ
なほ少したのむところぞありにけるあらはに我を憎みたる日は
何といふひややかさぞと恨まれぬそこなふまじとながめてあれば

つれなさを恨み泣くなどいとゆかしあだにせし日を惜みたまふな
君がいふひとりごとをも誓かと泣く我こそはうとむべきなれ
今君にためらへるこれいつのまにつかさどられし心なるらむ
走りこし心と言ひぬ三たび見てなるがやうにもなれと泣きつつ
恨めども我はと問へば一人をもひまなく思ふ心はあらじ
世のもののみな一いろに見ゆといふ君に見らるるけふののどけさ
足るにやと後に問はれむその日こそ恨むべきなれ君がつれなさ
君飽きて女ごころの美しさ無きかと泣けばさそはれて泣く
止みがたき遺傳なりしをおろかにもかへりみる日は死ぬほど苦し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思ふことはひとりごとにもなしがたきものさしみじみ我を嘆きぬ

かかること夢にも思ふ男かとはなれて思ふ日にはおそるる

やうやうに思ひそめしをこのごろもなほ思ふやといぶかしむらむ

泣きもえじふみにじらるるその日まであくがれたりし我と思へば

捨てらるといみじく泣けど捨てしとも人の思はぬこの身なるらむ

仇なるもよしと男の前に泣くわれはや同じ失戀の子に

自らに問ふべきほどの疑も思へばわかぬけふのさびしさ

君悲しおのれ悲しと同じ時涙流すにすぎぬはかなさ

な咎めそわがままなればえも悔いで求めんとするさかしまごとも

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

おのが死を忘れはかなきこの涙そそぐにかなへ君がむくろは

仇とまで叫びて心をまぎらはすほどの戀にもあらざりしかな

悲しくもなつかしきかな仇とのみ思ひつづけて死なましものを

追ひがたし君にとほらでただよへる心が描く赤きまぼろし

ためらふもゆくも走るもなかりけり動かされたる悲しき身には

毀てとも言ふべき人に追はれつつ悲しやけふぞまぼろしの君

この身はやささへらるるも立ちがたし願こそあれ弔ひたまへ

わが心よこしまなるを知りたまふ君にしあればなつかしきかな

ものうきに我を投ぐればくばりたる心地こそすれ惜むべきかな

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

何にてもおのれはよしと思へばか悲しきものと身をばさだむる

悲しかり戀とし知らばなすまじと人に誓ひておのれ破れば

こしかたに言ひなすのほかに言葉なし今をなみする戀にあらねど

君見むと待つはよからむみづからを愧ぢむと待てる我の悲しさ

待つことにたへぬ心の混亂か春の日更に長かれと泣く

まことには待たじと告げぬ言葉なき國に語らむ願はあれど

相よりは棄てよ毀てよかく泣けど言葉盡きなば悲しからまし

泣く日きぬをさなきままに老いたるが如き暗なき生涯を見て

病むときは書き終りたる消息も送らじとする我のはかなさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

戀人に逢はんとあした山をいでゆふべにつきしふるさとの家

雪白き山にまたきぬもの思はず働くことを父に誓ひて

忘るとも死ぬとも今日の悲しきは悲しきなるを如何してまし

病みほけしゆゑとかこちしうつけさによるわざはひをひとりかうむる

み手にだにふれがたくして影にゐぬ今や去なれむ今や消えむと

かかる戀とげうとかりにさだむともわれいくばくのことかあるべき

我死なばけふの如くもしたまはむ君もし死なば我如何せむ

失ひし身もて恨みぬおのれには女の命たまはらぬかと

ためらひぬ胸はなやみにとざされて來るも去るもあらぬ時さへ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

女ばかり（喜劇）

――小林哥津

人

みつ子　十三四の女の子。
お雪　みつ子の母、四十位
みち子　宗教女學校の生徒十八九。
民江　同。
歌子　同――十六七。
エルザ　舊教の尼さん、六十位の西洋人。
文子　卒業生、二十五六
りゑ子　女教師、三十五六。
外に若かい尼さん一人。女生徒大せ

舊教を奉じてゐるある宗教女學校の一室。――舞臺正面には木の戸、その兩わきに大きな窓、カーテンがひいてある。

（そのカーテンをあけると、外は運動場につゞく小さい庭、青いまばらな木立をとほしてむこうにも校舍が見える。）

上手は白い壁、下手は正面のよりはやゝ大きいガラスの扉と窓一つ。扉は兩方にひらいたまゝになつてゐる。そこからは廊下が見える。

黒いぴあのが一臺壁の方へむいてある、大きな籐椅子、細づくりの椅子が二三脚、それに圓い卓、しろ竹の鉢などがほどよくおいてある。――丁度應接間のやうな部屋。

みつ子と、お雪、とつつましく椅子によつてゐる。

廊下には女生徒が大ぜい、エルザをとりまいて、何

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かしきりに話をしあつてゐる。——時々さわやかな朝の風が、カーテンをゆすつてゆく。

エルザ。（ほとんど日本人かと思ふ程にたくみに日本語をつかふ。だけど時々あくせんさが變になる）——みんなおたすけなんですよ。ほんとうにおたすけなんですよ。ゆうべは風もありました、ほんとうにあぶないとでした。

女生徒のA。　そいぢやエルザ様が一番、誰れよりか先きにお氣がおつきになつたんですの。

エルザ。　そうですよ、——かうまるで、ヴエールのやうな薄い白いものが一番先きに見えたんです、——ねえいねちん。

女生徒のB。（八九才の子供）えゝそうよ、ねえエルザ様かういふ風に（身ぶりをする）手をまくり上げで、せつせと一人の方はお水をまいてゐらしつたわね。——そこであたしは氣がついたの。

女生徒のC。　火事はそいぢや一軒きりですんだのねえ。となりの家へもえつかないの。

女生徒のB。　えゝそうなのよ、そのお隣りはすぐ學校の會堂にくつついてゐるんぢやありませんか。

女生徒のA。　まあなんて、あぶなかつたんでせう。

女生徒のC。　ぢやエルザ様、ほんとうにもうすこしでいけなかつたんですわね。

エルザ。　ええほんとにね。——そいでも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

火はこつちへかかつてゐましたよ。

女生徒のA。　ゆうべ焼けちまつたら――まあちよいと、おどろくでせうね、あたし達は學校が、なくなつちまふとこだつたわね。

女生徒のB。　――寄宿の人はみんな焼け死んぢまつたかしれないわ。

どつと笑ひ聲がおこる。

エルザ。　さあみなさんあつちへ行らしやい、私お客様です。

生徒達はごや〳〵と退場。エルザは部屋の中へ入つてくる。

エルザ。　ごめん下さい。――お早やうございます。

お雪子。（立ちあがる）こんにちは。――どうもまことに今日はいゝお天氣で、結構でございます。

エルザ。　大變いゝお天氣で、よろしうございます。お嬢さんこんちは。――けふから學校の人にいよ〳〵なりますね。

みつ子。（無言つておじぎをする。）

エルザ。　――みつ子さんといゝましたね、みつさんあなた學校氣に入りましたか。

みつ子。（まだ無言つて笑つてゐる）

お雪。　これ、お返事をなさい。――まあ先生この通りなやんちやんで、さぞお厄介でございませうが、どうぞ何分お願ひ申ます。

エルザ。　おとなしいお子さんでよろしう

ございますね。ねみつさん、この學校ちつとも恐いことありませんね、

みつ子。（小聲で）恐かないわ、ちつとも。

エルザ。そうですとも、みつさんはゑらいんですもの。

お雪。いゝもうあなた、からものがわからないで困りきります。（間）――あの只今うけたまわりましたが、昨晩は御近火のやうなことで、まあさぞびつくり遊ばしましたでございませうねえ。

エルザ。火事。――火事でございました。一軒置いたおとなりから出まして、もう少しであぶないところでございました。

お雪。まあほんとうに恐いことでございますこと。

エルザ。それがあなた、不思議なことがありましてね、助かつたんでございますよ。丁度風の工合を見ませうと思ひまして、二階へ私が上りまして、火事の方を見てゐるうちに、何か會堂の屋根に白い薄いものがひら／＼みえました。――それがあなた、よく見ると、エンゼルぢやありませんか。

お雪。――と申しますと、あの神樣がお下り遊ばしたんでございますか。

エルザ。はい、――お一人が手桶から水をおまきになる、とお一人が箒木をもつて屋根をはいてゐらしやる、――エンゼルはお二人見えたんです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みつ子。　あの羽根が生えてゐて？。

エルザ。　何エンゼルですか。白い大きい大きい翼をもつてゐらしやいました。

みつ子。　まあどうして天から下りるのに手桶をもつて來たんでせうね。ほんとうに妙ねえ。（笑ひ出す）

お雪。　これ、これ、――何ですねそんなことを云つて、お前さんはだから馬鹿だと云ふんですよ。先生どうぞごめん遊ばして。

エルザ。　いゝえ、いゝえ、お子さんはどなたでも、そうでございますよ。

お雪。　それであの間もなく火は消えましたんでございませうか。

エルザ。　えゝ、おき火は消えました。それを見たのは――そのエンゼルを見たのは私と、さつきあすこにゐました、ちつちやい、いねちやんと二人でした。何か白いものが見えるね、と私が申しますと、あの子があなた、あゝあれはエンゼルだかと申しました。ありがたい事で、ほんとに神樣のおたすけで、助かつたんでございますよ。

お雪。　へーエ何とまあ、あらたかなこつてございませう。もう手前なんか、この西洋（あちら）のことは、少しもわかりませんが、あの中々西洋（あちら）でもこの御信心はみなさん遊ばすやうでございますねえ。

エルザ。　そうでございます、もうもう、西洋ではどんな、幼いお子さんでも、神

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

様の御名をとなへないものは、ございません。

お雪。　まあさようでございますかねえ。（みつ子に）それ御覧んな、お前さんのやうに観音様の前を通つても、おじぎをしないやうなお子さんは、西洋(あちら)にはありませんとさ。

エルザ。　みつさんもちき、神様にをいのりをするやうになりますねえ。

お雪。　無茶な子で困ります。こんな子をおあづかり遊ばすんですもの。ほんとうにおたいていな事ではございませんね。

エルザ。　いゝえもうあなた、勉強は、一番みつきんくらいお幼い頃からがよろしいんですよ。――さあ、お部屋を一つ、きめてまゐりませう。一寸おまち下ださい。

　エルザは正面の戸をあげて退場、みつ子はふつと居づまいをくずす。

お雪。　お前さん、なんだつて、先刻(さつき)のやうな遠慮なしな真似をするんですね西洋人はお恐りぽいんだからね、あんまり向ふが一生懸命のときは、笑つたり、けなしたりしちやお懲られますよ。わかつたかい。――えほんとうに。

みつ子。　あゝ。

お雪。　そいから何でも、先生には可愛がられるやうにしないと損ですよ、お前さんは時々どうも悪たれるからいけない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

よ。學校と家とはちがふんですよ。

みつ子。　あゝ。

お雪。　いやな子だね、馬鹿みたいに、あゝ、あゝ、云ふもんぢやないよ。學校で勉强して、えらくならなくちやいけないんだよ。お前、お母さんだつてこんな心配な思ひをして、寄宿舍なんかへ手ばなすのも、みんな、他人の中を見せたいばつかりなんですよ。

みつ子。　えゝ、

お雪。　その代り又お前さんがお家へかへつてくる日には、なんでも買つてあげるよ。だからよく勉强するんですよ。

みつ子。　えゝ、何を買つて呉れるの。

お雪。　何でも、——いゝものをさ。——

正面の月があいて、女生徒が入つてくる。

女生徒。　あの、どうぞこちらへと申しますやうにエルザ樣がおしやりました。

お雪。　はあ、あの、どつちの方へまゐりましたらば——。

女生徒。　私と御一緒にどうぞ。

お雪。　あゝ、さよですか、さあみいちん。

三人退場

しばらく(間)

どつかはなれたところで、ぴあのを弾いてゐる。その響が、いかにものどかにきえてくる。

廊下の方に人の氣配がして、みち子と、民江が二人ついて部屋に入つてくる。

みち子。　(本をもつてゐる)　あたしやほんと

におかしくなつちまつたわ。

民江。（編物をしきりにしてゐる）　随分馬鹿にしないわね。

みち子。　ほんとね。ちよいと、かういふやうな風つきをしてね（つまさきで立つて歩きながら）「先生、私いくらでも、先生およろしいだけお金出しますからどうぞお免状下さい。いくらでもお金もつてゐます」ですつてさ。

民江。　何是あゝ支那（ちやん）なんてものはづうづうしいんでせうね。

みち子。　とねまたあのマルタ様つたら眞面目になつて、「いゝえいゝえあなたまだABCもよくよめません、だめ、だめ」つて云つてるのよ、――まるで喜劇ね。

民江。　まさか斷つたんでせうね。

みち子。　そりああたり前だわ。マルタ様ぢやないけど、あのひとまだろくそつぽう、ファスト、リーダーも讀めもしないくせに、――

民江　そいでも、支那ぢや、革命婦人の一人かもしれないわ。

みち子。　ふゝ、あの女（ひと）、ちやんちやんにしちや足が大きいわね。

この對話のうちにみち子は卓だの椅子だのを正面の窓ぎわにもつてくる。

民江はカーテンをひく。

みち子。（窓の外を見る）おや、ちよいと御覧んなさいよ、まだ話してゐてよ。

民江。（同じく窓をのぞく。）何に、さつきの支那人(ちやん)が？。

みち子。　あらその事ぢやないのよ。プラス様とメラニー様とがさ。

民江。　あゝあ、ほんとうね、先刻からもう二十分もたつてゐる、てのに――

みち子。　ずいぶん、大びらね。――何て一生懸命なんでせう。

民江。　よくあゝ話す事があつたもんね。

二人は卓をはさんで椅子へかける　民江はかまわず編物をしてゐる。

みち子。　一生懸命ね。――昨日だつてそうよ。あたしの級のディクテーションの時だつたのよ、少しプラス様がよみ始めると、そこへメラニー様が入いつて來たの、そして椅子をかうよせてね、顔と顔をくつつきつそうにして話しはじめるぢやありませんか。

民江。　あら、あなた家事の時に先生に何ておそわつて、――女には嫉妬(やきもち)は禁物ですつて、教はつたでせう。

みち子。　いやな人。――まあいゝからお聞きなさいよ。そりあお可笑かつたの。あんまり、お可笑かつたんで、皆がくす〱云つたのよ、それがプラス様に聞えると間のぬけた聲で先を二三行べら〱と讀んぢまつて、又しやべり出すのよ。――あたし達は幸(しやわせ)だつたわ、みんなおしへつこが出來ちまつて。

民江。　ぢや、よかつたでせう。ね皆は、

ーーたゞ厭だつたのはあなただけね。

みち子。　およしなさいつたらそんな事。ーーそいからね、そりあメラニー様はおもしろいのよ。あたし達のペンもつて待ちかまいたやうに目をあげてゐるのにふつと御じぶんの目がぶつかるとぽうと顔を紅くして下をむいて了ふの。

民江。　そう、ーーあの方はお怒りぽい、疳癪持だけど。ーーずいぶん子供ぽいわね。

みち子。　（又ふつと窓の外を見る。）おやまだ話してゐてよ。ーーちよいと。何をまああんなに話してゐるんでせうね。

民江。　何を話してゐるんでせう。ーーわからないわ。

みち子。　よくまあ話にあきない事ねえ。

民江。　ーーあたしはね、きつと、あれは愛の話をしてゐるんだらうと思ふの。

みち子。　ーーあらおよしなさいな、そんな事いふの。

民江。　そういふ氣がするつていふ事だけなのよ。

みち子。　（一言らしく）愛なんて、ーー愛だなんておかしいわねえ、ちよいと民江さん。三年の松原さんもよくそんなこと云つてよ。若さを捨てゝ、美しさを忘れて、黒い着物で自分をつゝんでしまふあの人たちのことを考へると何だか妙に悲しくなるつて。ーー

民江。　何是でせう。そんな奇麗な人ばか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りでもないわ。あの人の考へてゐるやうな、ローマンティクな尼さんなんかこの學校中、だれ一人あるもんですか。――松原さんは小説中毒よ。だからあの人の云ふ事は、うわ言みたいな事ばかりだわ。

みち子。そうでせうか。

民江。　そうよ。どうせこんなところにゐるやうな人は生れだち、不幸に生れついてゐる人なのよ。まあ云つて見れば孤兒だとか捨子だとか、ねえ。だれがあなた、美しく生れて、幸福に育つて、世の中を捨てるなんて人があるもんですか。――世の中を捨てちまいたい程な不幸にぶつかつたつて、尼寺へ來るなんて人はよくよくよ。よくよくあきらめのいゝ人で、そいから、めづらしい正直な、――まあ馬鹿みたいに正直な人だわね。

みち子。　そしてね、いつだつたかはあの人はこんなことも云つてよ。あのね自分の今の身もなにも忘れて了ふような（ふつと聲をひそめて）戀にでも出くつわしたらどうでせうつて。

民江。　あの人もよけいな心配をするのね。

みち子。　あなたはどう思つて。あたしはね、あの方だちは、もう神様つてものに、自分のもつてゐる限りの愛をさゝげて了つてゐるんでせう。だから、あの方たちの胸はもう神様のことで一ぱいでなくつちやならないわ。だから、そんな戀

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なんてものゝ入るすきもない筈だわね。――その時もあたしそう云つてやつたの。

民江。 ぢやあなたはきつとそんなことがないつていふの。

みち子。 ねゝそうよ。――ちがつて。

民江。 そうかもしれないわ。――だけどあなた神樣なんてものは、當てのない、云はゞ空なもんぢやありませんか。そんなものを當てにして、あるかぎりの愛をさゝげるなんてつまらないことぢやありませんか。――

みち子。 だつてあなた、愛をもつてゐるからこそ、あゝしてあの方たちはゐるんですわ。

民江。 そうでせうか。――それにしても變だわね。メラニー樣と、プラス樣とをごらんなさい。そいからメラニー樣とあなたのことを考へてごらんなさい。

みち子。 おゝいやだ。――それは愛だの、戀だのつていふのとはちがふのよ、お友達同志の仲のいゝのと戀とは違ふ事よ。

靜かに廊下をふむ音がして、文子とりゑ子が入つてくる。――民江とみち子は氣がつかない。

りゑ子。 ――ほんとにそれでなくつちやいけませんわ、お母さんの學校へまたお子さんがくる、そしてお母さんと同じ敎育をおうけなさる――それでなくちやいけませんわ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みち子と民江はりゑ子の聲ではじめて氣がつく。

りゑ子。（二人の方へ）おや、まだあなた方こゝにゐらしつたんですか、鐘がなりましたよもう。

みち子。あらさようでございますか。

りゑ子。早くゐらしやい。

二人は編物も本も卓にのせたまゝ、かけて行つて了ふ。

文子。のんきな人達ですね。

りゑ子。鐘のなるのもしらないんですよ。ほんとに若いうちはのんきなもんですこと。

文子。何だかおもしろい話をしてゐましたわね。

りゑ子。若い人達はよるとさわるとあゝですの。——考へて見ると私達の組は、おてんばだつた代りにさつぱりしてゐましたわね。

文子。そうでございましたねえ。卒業するまで、鬼ごとや陣とりで夢中でしたわ。

二人とも椅子に座る。

りゑ子。ほら御覧ん遊ばせ、（窓の方を指さす）——あの薔薇の植つてゐるところがございますね、あすこの向ふが、幼稚園になつてゐるんですの。——お嬢さんの學校を後で見にまゐりませう。

文子。えゝ、どうぞ。もう毎日、學校へ行くのをたのしみにしてゐるんでございますよ。學校には何があつて、花があつて、鳩がゐて、と、もうそんなお話ばか

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りですの。

りゑ子。　結構ですことね。――ほんとうにお母さんの學校へ又お孃さんが來るなんて、何てゝい事なんでせう。私何んでも、ものはそうなくつちやならないと思ひますわ。

（間）

文子。　これで學校も、大分、私達の時よりは生徒もふえましたやうですね。

りゑ子。　えゝ、もう三倍、四倍くらいにはなつてをりませうか。おかげ樣で、めき〳〵大きくなつてまゐりますの。

文子。　結構ですわ。――山田さんももう先生におなりかと思ふと、何だか不思議な氣がいたしますの。

りゑ子。　あらそうですか。あなたも、あの年にもうお嫁入を遊ばして、五つにもなるお子さんがおありかと思ふとまるで夢みたいですわ。

文子。　お互いに、大きくなつたもんですわね。――

りゑ子。　ありがたいもんで、この頃ぢやあなたすつかり私も馴れましてね、教壇にたつてどきまぎするやうなこともありませんの。

文子。　そうでございませうね。もう先生におなりになつて三年ですものね。

りゑ子。　なんですか、かうやつぱり同じ學校の中で、あばれてゐた女（ひと）が急に先生になつたんですから、あの時分下の級

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

にゐた人たちも、おかしかつたんでせうね。なんですか、知つてゐる級へは敵へに出るのが厭だつたんですの。――それももうこの頃ぢやその級も卒業して了ひましたし、まつたく新しい心持で、敵へられていゝんですの。

文子。 そうでございませうつて。――大體あなたなんかちやんと宗教の方から出來てゐらしやる方なんですもの、結構ですわ。

りゑ子。 どういたしまして。それでもね、今でも時々おかしい事があるんですの、生徒から質問されて困りきることがありますの。

文子。 私達でもずいぶん學校にゐることは惡うございましたものね、先生なんかなんとも思はないで、困らしてやらう困らしてやうなんて思つちやむづかしい事を考へたりして、わざときいたり、ほんとに女學生なんて手におへないもんですね。

りゑ子。 ほんとにでございますよ。やゝともすれば私なんぞ先にはよく馬鹿にされましたわ。――あれは何時でしたつけか、その日の朝あつたことを實例にとつて、質問を出れた事がありましたの。

文子。 女學生と先生はほんとに仲の惡いもんですわね。

りゑ子。 そうでございますよ。大きな聲ぢや云へませんけど、あんな苦しい思ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

をしたことはございませんわ。その時はね修身の時間でしたの。アンナつて子がゐますのよ、ちいさい組にね。その子が嘘をついたのが問題になつたんですの。その子は學校の教會の信者なんですの。それで、いつもの通り、日曜日にこの一週間の間にした、じぶんの罪を懺悔しなくつちやならないんでせう。と、その子は、罪をしたおぼえはなかつたんですつて。だけど、無いと云ふと、嘘だろうといはれるのがいやだからと云つて、しもしない、罪をしたつて云つて嘘を云つたんですの。

文子。そいでどういたしましたの。

りゑ子。その又嘘をついたのも恐しくなつて、又づつと後になつてとりけしを云つたんですつて。それでほんとうの嘘をついたといふところから又罰をうけたんですの。それが生徒の中ではいゝ話のたねになつたんでせうね。それを私に嘘をついたアンナと、嘘をつかした神樣とどつちが惡いでせうと聞くんですの。

文子。むろん、アンナの方が惡いぢやございませんか。

りゑ子。私もそう思つて、そう云ひましたの。とその生徒は、質問をした生徒はそれなり無言つて了つたんです。

文子。生意氣は云つても、子供ですわね。それ以上云はないんですの?。

りゑ子。えゝ、そいでもまあよかつたと、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

その時私は思ひましたわ。考へて見ると嘘をつかなくてはならないやうになつた、アンナの心持を考へて見ると——もつたいないけど、神樣も惡るいんですし、又正直でなかつた、アンナも惡いしなんだか、こんがらかつてわからなくなりますね、だん／＼考へれば考がへる程ね。

文子。　そうですわねえ。——でも私の子供がそういふ質の嘘を申しましたとしたら、——私きつと又後になつて又罰なんてやりませんわ。子供はそりあ正直ですものね。

りゑ子。　でもその罰はおきてなんですの教會でのね。

突然正面の戸があく。二人はそつちをふりかへる。
そこに、お雪と、みつ子が立つて居る。

お雪。　おや、どなたかお出になつたんでございますか。まあとんだ失禮を。

りゑ子。　いゝえ、かまわないんでございますよ、さあどうぞ。

お雪。　まあちつとも存じませんで、ごめん遊ばせ。——實はもうぢき荷がまゐりませうと存じまして、こちらで、待つてをりませうと思ひまして、——

りゑ子。　いゝえよろしいんですの、さあお入り遊ばせ。

お雪と、みつ子は入つてくる。りゑ子は椅子などをすゝめる。

お雪。　どうもおそれ入ります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

文子、ふつと、廊下の方をすかして見る。

文子。 おや、校長さまが庭にお出ましでおいでゝすね。私一寸お目にかゝつて參りますわ。

りゑ子。 ぢや、さうなさいませ。――こゝへ又ゐらしつて下さい、御一緒に幼稚園へまゐりますから。

文子。 えゝどうぞ。(お雪に)どうも失禮。

文子廊下の方へ退場。

お雪は手もちぶさたにしてゐる。みつ子は、扇をつかつたり、あたりをながめたりしてゐる。

りゑ子。 御寄宿なさるんですつてね。まあおゑらいんですね。

お雪。 いゝえもうどういたしまして、宅が何分にも遠いものでございますから、まあ當分お厄介になります。それに宅では思ふやうに勉强もいたしませんから、かへつて寄宿の方がよからうと存じまして。

りゑ子。 さよでございますか。まあお遠いところは、寄宿だと大變に便利でございますね。

廊下の方の扉のそとを、一團の女生徒たちが、靜かに、若い尼につれられて通りすぎる。――それをみつ子はぢいと見る。

みつ子。 お母さん、――また通つたわ。

お雪。 そうかい。――あの先生、あゝして先程からあの生徒さん達は、お廊下やお庭を歩いてゐらしやいますが、あれは何をしてゐらしやるんでございませう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

りゑ子。　あゝ只今の方達でございますか。あれは、あの默想と申しまして、一週間の間無言の行をつゞけてゐるのでございます。

お雪。　無言の行と申しますと?。

りゑ子。　あゝして一週間の默想がすみますと、洗禮をお受けになつたり、初聖體の儀式をなさつたりすることが出來ますんでございますの。

お雪。　とまあ日本のお坊さんの寒行をするといふやうな行とも又ちがいますんでございませうか。

りゑ子。　日本のお坊さんのことは存じませんでございますが、あゝやつて默想をしてをりますうちには、じぶんのした罪を思ひ出したり、神樣といふものを考へたりするんでございます。

お雪。　まあ左樣でございますか、中々どうも、大變でございますねえ。

みつ子。　――あのこの學校の人は皆んな、あんなことをするんでせうか。ねえお母さん。

りゑ子。　いゝえあれは信者におなりになる方だけなんです。

お雪。（ちよつと安心したやうに）　信者の方だけだとお仰るよ。

――さつきの文子が窓の外で手まねぎをする。りゑ子は、かるく頭を下げて急いで退場。

みつ子。（椅子へこしを落ろす。）　――ねえお母さん。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お雪。　何さ。

みつ子。　學校ぢやお茶うけをたべられるのかしら。

お雪。　食べられませうさ。――何是だい。

みつ子。　何是でも。――もくそうなんか、ほんとうにさせないかしら。

お雪。　心配おしでないよ。あれは信者になる人だけだとさ、

みつ子。　ほんとかしら。――もうあたいもするんならいやんになつちまふ。

お雪。　大丈夫だよ。そんなこと。

みつ子。　でも又あとで先生に聞いて見て頂戴ね。

お雪。　大丈夫だつたら、いやな子だね。

みつ子、又立ち上がつて窓をのぞいたり、カーテンをひつぱつたりはじめる。――

みつ子。　あらお母さん、又先刻(さつき)のお婆あさんの西洋人が大せい生徒とあすこで話をしてるわ。――又きつと手桶の神様の話だよ。きつと。

お雪。　――惡いことおひいでないよ。でもなんだねえ、西洋(あつち)のお婆さんも、日本のお婆さんも、お婆さんには變りはないね。

みつ子。（窓をはなれる）何是？　お母さん

お雪。　そうぢやないか、家のお祖母(ばあ)さんもあんなぢやないか、一年中阿彌陀(あみだ)様の夢を見た話でもちきりだあね。

廊下に黙想の一團がまた、さつきとは反對の方へあ

ろいて行く。

みつ子。　おや、又お母さん、あのさつきのが通つたよ。――お母さん。

お雪。　大きな聲を出すんぢやないよ。

みつ子。　まるで、啞みたいだね。――大丈夫かね、ほんとうに。

お雪。　しつくどい子だね。――大丈夫だつたら。

みつ子。　ねえお母さん。こんだの日曜はいゝ、しあさつてだね。

お雪。　あ、あ。

みつ子。そん時きつと、ほらあれ買つて頂戴ね。――ぴか／＼光る櫛と、洋服と――

この時トンと大きな音がして正面の戸をあけて、歌子が入つてくる。何かおそろしくおこつてゐるやうな顔をして、兩手一杯、荷物をかゝいてゐる。部屋の中の二人には目もくれないで、さつさと、お雪の前の卓の上に荷物をほゝり出して、又ひどい音をたてゝ、出て行つて了ふ。

お雪。　おやびつくりしたよ。――何てまあ、やけな娘さんだろう。

みつ子。　何にかおこつてゐるのね、きつと。

又歌子が入つてくる。今度は風呂敷をもつてれ。それを床の上にひろげる。

お雪。　あのこゝでおつゝしみなさいましよ。

お雪が椅子をねつてやる。

歌子。　えゝ、ありがとう、だけといゝんですの。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

お雪。さようですか。――あらあなたインキがおちますよ。それは別になさつた方がいゝでせう。

歌子。えゝ。

お雪。まあ大變なお荷物ですね。毎日そんなにお持ちですか。

歌子。いゝえ。――あたしはもうさがるんですの。――ありがとうさよなら。

歌子は足早やに出て行く。

それと入れちがひに廊下の方からさつきの民江とみち子が入つてくる。

みち子。もう行つちまうたわ。

民江。よつぽど變ね。まるであれぢや氣狂ひね。

みち子。（お雪へ會釋をする）あの一寸ごめん遊ばせ。本をとりますから。

お雪。さあさあ、これでございますか。（本と編物をわたす）――あの只今のお嬢さんどうなすつたんでございませう。

みち子。變でございましたらう。――おゝこりになつてるんですの。

民江。あの方のお姉さんが、オペラシンガーになおりになつたんで、學校で、除名しましたのを、ひどく怒りなんですの。

お雪。オペラーつて何をするんでございませう。

民江。あの歌劇のうたうたいなんでございますの。――あの方は（ちかふ聲で）いま〱しいからこんなけちな學校は下が

ちまふのよつて云つたわねえ、民江さん。

民江。　ええさうよ、そして、お祝ひ日だとか何とかいふ日には、勝手につきあ生徒に歌をうたはしたり踊らしたりするくせにずいぶん、人形[illegible]にしてるわつせ、先生の前で云つたんですの。

みつ子。（ふいに口を出して）あら、いつお踊りなんどおどらすの。

民江。　いゝえ、あの方がそういつたつて話なんですの。——それあ全く、踊らしたり歌はしたりすることもあるんですの。校長様のお祝ひ日にはね。

みち子。　全くだけど歌子さんと来ちや亂暴すぎるわ。お金を出して教はりに来てあなた、お客様を除名が聞いて呆きれるわつて云ふんですもの。少しおどろいたわ。——あの學校のお家はまつさ、お金を尊く思ふお家なんでせうよ。

お雪。　まあ、そう先生の前でお仰つたんですか。

民江。　いゝえ、それはかげ[illegible]んですの。——（みち子に）何是みち子さん、お金[illegible][illegible]く思はれる家なんてお仰るの。

みち子。　だつてさうぢやありませんか——お金、お金つて、あの方はよく云ふぢやありませんか。だからきつとお金のことばかりきつと一年中考へてゐるんですわ。

民江。　——もつとも、姉さんがオペラのコ

テラスへ入るくらいですものね。だれが好きこのんでやる人はないわ。

みち子。　およしなさいよ。そんな悪い事いふの。歌子さんが聞いたら、藝術を尊重もないつておこつてよ。

二人は笑ひ出す。——お雪はやつぱり手もちぶさたでゐる。

——ふつとこの部屋にちかひところで幼い女の子がスロルをよむ聲がする。

しばらくして、けたゝましい音がする。

大勢の笑ひ聲がする。——と思ふ間に、なんだかすゝり泣きをしてゐるらしい聲もきこえる。

民江。　おや又始まつてよ。イニーよ、ね又。

お雪。　どなたかお泣きですね。

みち子。　あの子、しよつちうですの。

大勢の足音と笑ひ聲がだんだん、遠くへ行く、民江は戸をあけて半身、むかうに出す。みち子もそのうしろからのぞく。

みち子。　あらあら、又かけられたのね。

フール、バカ、イニーですつてさ。

民江。　又わざつとよ。——悪いいたづらね、一體マルタ様は、いたづら過ぎるわ。

みち子。　泣いてゝよ。——

民江。　あれもうそ泣きよ。きまつてゐるわ。

きづかわしげにお雪も、みつ子も窓からのぞいて見る。

お雪。　あら幼いお子さんですね。

民江。　えゝまだ幼いんですの。——ほら

脊中に紙が下がつてをりませう。

お雪。　えゝ。

みち子。　あれは勉强がすこし出來ないと、下げられるんですの。

お雪。　まあ何て、きびしいんでせうね。あゝやつて、先生がたみな樣に見せてお歩きなんですね。

みち子。えゝそうですの。

民江。　きびしいつてより、いたづらですわ。勉强が出來ないときにはかぎりませんの。――あゝやつてあの子は、コミカルな風つきをして泣きながら歩るいてゐりませう。ほんとに妙な、かつこうぢやございませんか。

お雪。　まあほんにね。

みち子。　あの子とあのマルタ樣はこの學校の喜劇役者ですの、――今日だつて、きつとあの子は勉强が出來なかたんぢやないんですわ、面白ろづくに下げられたり、下げたりしたんですわ、きつと。

みんな部屋へもどりくる。みつ子だけはのこつてまだ見てゐる。

みつ子。　（ふいに）　何是、みんな見てるの、だれも、あやまつてあげないの。

民江。　えゝ、面白がつて、皆な見てゐますわ。――あの子は、歌子さんの姉さんよりよつぽど芝居が上手かもしれないわね。

（笑ふ）

みつ子。　そうですとも、そいからマルタ樣もね。（笑ふ）

みつ子がもどつてくる。そしてお雪の肩をゆすりはじめる。

お雪。 なんだよ。この子は、はつきりもつとお仰いよ、きこえないね。――え、何、學校はよす。――馬鹿お仰しやい。何だつて、いやだつて――、いゝぢやないか、お前もあの子のやうに紙をぶる下がられたら、あの子のやうにおどけた眞似して歩るいていけばいじやないか。――

民江とみつ子はたまらなそうに笑つてゐる。

みつ子は、「ようよう」と鼻をならして、お雪の肩をゆすぶつてゐる。――

――(幕)――

戀愛の自由——エレン・ケイ

併し若夫婦がかれ等の感情の永久性に對して、最も深い相互の意識を有してゐる時でも、かれ等の戀愛が直にもろ〱の權利とそれに供ふ後年の責任とを包含しなければならないと云ふことにはならない。何故なら若樹は果實の重さに耐へかねて折れたり、撓んだりするばかりでなく、樹があまりに若い爲め、果實が充分に熟さない場合がある。ここでは自然それ自からが早婚の反對者である。自分が今論ずるのは、あまりに結婚を急いだ結果自己の意志に反して一緒になつた人々は暫時置いて、相互に深い意味で結合した確かな若い結婚者のみを取り扱ひたい。かくの如き結婚者と雖もかれ等の性交の恐らく必然の結果とも云ふべき、子供の爲めに確かに苦しむやうになるであらう。この結果を我慢することが出來ないと云ふかれ等の意識は勿論かれ等をしてそれを避けやうと試ましむるであらう。併かしこれこそ相愛生活にとつて醜惡の初まりである。多くの人はそれがまた種々の危險を含んでゐると考へてゐる。種族に對して既に新生命の貢を納めた人、若しくは納貢の資格

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を缺いてゐる人々にとつて、二個の危險に對する撰擇は自由でなければならない。併し共通に生を開始するに當つて、この方法は等しく不安で不健全であるかも知れない、何故なら全體から見て種族的本能が未完成のままであるから。かくして戀愛はその精神的意義の一部分を失なひ、性慾はその自然的節制を失ふ。併したとへこれ等の結果が伴なはないでも、『失敗』はこれ等の場合に於て最も幸福なまた最も普通の出來事であるかも知れない。然しそれなら實際は果してどうであらう。

大抵の場合に於て、若き人々が自由結婚をするのは所謂正式の結婚をする見込がないと思ひ込んだ時である。かれ等自身既に他の人々によつて扶養せられてゐるから、かれ等が借金をし、或は低廉の賃金勞働に從事しない限り、子供を養育することはむづかしい。またかれ等が自活する場合に女は子供の爲めに仕事の殆んど全部を捧げなければならないから、子供は非常な生活の障げとなつて來る。故に若き人々の親戚がそれを助けなければならなくなる。そして若し出來得る場合には、相愛者は餘儀なく結婚して兩親の與ふる補助を受けなければならない。貧民階級では、新婚者が男女孰れかの兩親と一緒に止まる場合が多いから、これは比較的少ないのである。併し上流階級では、それに反してかれ等は十分なる理由のもとに、かれ等自身の家庭を作らうとする、そしてそれ故如何に簡易であつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ても、必然の結果として子供の世話と家事とを營まなければならなくなる。併しこれはかれ等の勉强、行動の自由、及び一般の發展を障げることになるであらう。かくしてかれ等は精々かれ等の兩親に養はれる籠の鳥で、かれ等の自己發展の爲めにまつたく献げられなければならない數年間を義務の爲めに束縛せられなければならない。

かくして早婚は、その形式の正不正を問はず、無數の優れたる力の成長を妨害し、後年に於ける幸福の充分なる可能性を破壞する恐れがある。早婚は若き人々の中にひそむ力强き慾求を減殺すると云ふのは事實である。併しかれ等のやがて發見するのはそれが同時に知識に對する慾求の滿足、研究の趣味、創造力、その他の方面に於ける活動の自由、たとへば旅行及び健全な意識に於ける快樂等をまつたく不可能にすると云ふことである。若き母親の美は恐らく決して自然によつてもくろまれたる充分さには到達しない、そして彼女は早くも老衰するべき運命を有してゐる。そしてかれ等の子供等か虛弱でないにしても――大抵の場合さうではあるが――かれ等は求められた場合には齎らすことが出來たかも知れない幸福を母に與へない、乃ち彼女は子供等の爲めに彼女の若き喜び、及び充實せる力と美とを犧牲とし、母たることによつてそれを高めることが出來ないのである。結局、子供等は母が稍や成熟した年齡に於てかれ等に與へることが出來たかも知れない養育を受け

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ない。

若し一對の戀人が自分から好んで早婚の弊害を甘受したとしても、それはかれ等自身の出來事でなければならない、然し子供の爲めにはそれが損失である、

子供が出産にも養育にも出來るだけ十分好都合の狀態を享樂し得る爲めに、北方歐羅巴では女子の結婚年齡が少なくとも二拾歲、男子のそれは約二十五歲と定めてある。これが成熟期である、そしてこの年齡まで、青年は完全な節制によつて得るところがある、それは適當な年齡に於ける結婚によつて、タシタスの言葉を藉りて云へば、『子供等をしてかれ等の兩親の力の證明にする』爲めである。今日年少科學者の意見によると、性質の遺傳と云ふことが段々疑がはしくなつて來た。然しこの見解を今なほ把持し、辯護してゐる人々の主張する處によると、種族進步の一條件として、出産は兩親の活動と四圍の狀況とが一定の性格を取るまでは起らないのださうだ。女性に多大の注意を拂つた鋭敏な心理學者等の考ふる處によると女は三拾歲迄は充分な精神的成熟に到達しない、然し一方では勿論その若々しさをそこなはれずに所有してゐる。そして女の容貌はその年頃にならないと眞に完全な表情をとらず、その個性、智力、情熱等がこの時初めて十分に覺醒して來る。そしてこれ等の諸性質のみ深い愛を感受せしめ、かくして婦人は晩婚によつて全てを得る、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然るに早婚の結果は夫が自分の妻を『教育』しなければならないやうになる、即ち或る機智ある婦人が云つたやうに、夫は他人の代りに妻を教育しなければならないやうな運命になる。

成熟期に達する迄禁慾することは著しく心身の力と兩性の彈力性に功果がある、そしてこの功果は時々この年齢を經過して延長し得ると云ふ説は單に偏狹な道學者ばかりでなくこの種の事柄に關して最も廣い觀察をしてゐる科學者等も積極的に主張してゐる。

この直接な利益にまた間接なものが附け加へられなければならない、乃ちより偉なる悅樂のためのあらゆる克己は——そしてこれ以上偉なる目的があり得やうか？——意志に力を與へ、人格に喜びを與へ、その力は後に至つて人生のあらゆる他の方面にも重要な働きをするやうになる。

結婚年齢のかくの如き遲延は恐らく多くの婦人によつて反對せられないであらう。若き娘達は他の人々の經驗によつて學び得た結果、今では二拾歳以前に結婚する婦人は殆んどなく、二拾五歳前は未熟だと云ふことを知らない者もない。その上南方の血が混合してゐないので、女子が性交を急ぐことは稀れである。北方婦人の官能が意識的に目醒めるには實際かなりの年月を要する。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

併し若き娘は彼女の戀人が惱む慾求を滿足せしめたいと願ふ、彼女の要求を滿足せしめた愛情の實證が男の苦惱を増したと云ふことを知り得た時、更にさうである、そしてそれ故彼女は待てと彼女に嚴命する最も深き內部意識を沈默させる。

この內部命令の沈默は屢々その結果として二個の靈魂が十分結合されてゐないことになる、何故なら肉がかれ等の間に横たはつてゐる、ニイチエの言葉を以つて云へば『肉慾は屢々戀愛の成長を早める、故にその根は淺く、容易に引き拔かれる。』。純なる道德的感情に於て、かくの如く戀愛によつて自からを與ふる若き婦人は、良家の婚約せる娘にして彼女が愛すると稱する男をして彼の最善の少壯時代をたゞ獨り勞作せしめ、以つて彼女自身若しくは彼女の家族が要求する生活狀態を準備する婦人に比してその位置は遙かに高い。併し兩者より更に高く立つてゐる婦人がある、彼女は如何にして戀愛の青春を維持すべきかを知つてゐる。そして幸福に對する女自身の要求がもつと洗練せられ、自然に對するかれ等の洞察がもつと深くなり、かくして春的發達の指導者たるに適する時――スカヂナビヤに於て前時代の間それは不幸にして男子の手中にあつた――かれ等はまたこれを理解するであらう。かれ等は愛が未だ口にせられず、期待と直覺とに滿つるさま〴〵の約束によつて自由幸福なる時期を延長しなければならない。そしてかれ等はこの爲めに遊戲、散

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

歩、研究の伴侶を棄てる必要はない、それはそれ自身健全であり、愉快で幸福の準備となつてゐる、然し今ではそれが早婚の機會を作つてゐる。女子は待つ間の苦痛が減少せられる爲め、自から守るべき時を理解するやうになるであらう。かれ等は私しの結婚契約を縮め、公けの契約を廢するであらう、それは兩方とも感情を稀薄にする恐れがあり、殊に後者は戀愛の秘密を濆がすからである。

若し北方の青年がこの情調と調和する精神を感じないなら、その生活はその青春を失なつたであらう、――勿論その代りとしてより永い夏を樂しむことは出來ないのである。何故なら未熟は自然に於ても人生に於ても復讐せられるからである。人生の各時代の特有なる美を十分經驗することとは人生の意義を深く理解する上に欲くべからざることである――そしてこの眞理は一人のジユリエツトが僅かに十四歳なるが故に不確かだと云ふことは出來ない。シエクスピヤが彼女によつて表現したものは他の力と殆んど比較しがたい年少戀愛の力ではなく、寧ろ彼はあらゆる障害に打ち勝つ刹那的、致命的の戀愛を表はしてゐる、それが――如何なる時代に於ても等しく力強いが――最も誤まらずその力を現はすのは二個の人間を驅つて死に赴かしめる時である、その時かれ等の前に横はる未來の生活は死の思想を最も恐怖に充ちたものとする。たゞかくの如き例外のみ春に於て夏の花時を豫想する

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ことが出來る。現今多くの青年が女子の機能が充分成熟して果實を結ぶ迄待つことによつて、戀愛はその情熱と純潔とを失ふと云ふ思想を抱いてゐるのは、かれ等の性質の全要求からではなく、その一方にあまりに多く重きを置き過ぎた結果である。完全なる戀愛の貞操が結合に對する條件としては靈肉の意志によるものであると云ふこと以上に確かなことはあるまい。併しこの正しい意志はその實現の可能の前後孰れの場合にも發見せられ得るかも知れない。故に戀愛の貞操は完全なる結合を待つことにも、まつたくそれを拒否することにもそれ自からを現はし得る。

青年が二十五歳に達すればそれ以前に彼が經驗したやうな戀愛の陶醉狀態に入ることが不可能になると云ふのは眞である。併し若し青年が二十五歳頃初めてそれを感じるなら――快樂に對する心身感覺のあらゆる法則に從つて――彼は若き日に於けるよりも一層豐富な生命ある陶醉を味ふことがある、何故なら彼はその時丁度その性的存在の絕頂にあり、幸福に對する勞働の數年以後に於てあるから。

早熟な春的要求が機能の要求の結果と云ふよりも、寧ろそれに對する想像の影響によるものだと云ふことは爭ふべからざることである。春的問題を取り扱ふに美しく健全なる新方法のみ現今過度に興奮せる空想を次第に改造し、春的好奇心を和らげ、自己及び新時代

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

(子供)に對する責任の觀念を强めるであらう、故に早熟なる性的生活は靑年に對するその牽引を失なふかも知れない。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

併しながらすべてこれはただ未熟の靑年に關してである。

一方に於て一對の戀人が充分成熟した年に達し、かれ等の完全な結合がかれ等自身及び種族の生の增進を捗ることが出來た時、若しかれ等が結婚しないなら、それはかれ等自身並に種族に對して罪を犯すものである。

併しかくの如き場合に於ても戀愛を秘密にすることは願はしいことではない。さうすれば女は絕へず、子供の出產の爲めに不安を抱く、そして而かも――幸福の第一期の後――子供に對するのみならず、全て彼女の感情に太陽と新鮮な空氣とを與へ得る生の條件に對する慾望が次第に成長するにつれて、彼女は温室若しくは穴倉に閉ぢ込められてゐるやうに感ずる。

大抵の場合に於て、このひそかな幸福がどの位迅やかに衰へるかはただ時の問題である、故に危險は殆んどまつたく女子の側にある、そして男子はあまりに多く受身の位置にゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

それにかくの如き場合兎角人間の性質と云ふものは一方が冷淡になり易く、より多く戀着せる女子の方がその戀愛のため弱くなるものである。若し男がそれによつて冷淡にされないなら、それは彼が極端に敏感だからである。そしてまた、若し男がさうであるとすれば、其時女子がその大部分を與へる秘密結合はかの妻が彼女の財産並に仕事によつて夫を扶養する結婚の如く男にとつて屈辱的なものとなるのである。女子は女子で一層氣むづかしくなり、彼女が棄てた家庭と子供とに酬ゆるべき戀愛に對して一層高い要求をなすであらう、若し彼女がそれを得たとすればその二つのものによつて彼女は先づ自己の力が四方に發展せられたるを感じ、他の言葉を以つて云へば、完全なる幸福を得たかも知れないのである。何故なら女子の最上の性質は、情人としてさへ、その本性の母態と絡み合つて分離しがたいものになつてゐる。

女子が結婚をせずしてまつたく男子に身を任せると云ふことは女子の不面目であると云ふ説はこれまで隨分色々と云はれて來た、例令ばかくして男は自己の眼中の愛人を輕視し、彼女の眼中の自己を輕視するとか、男子は利己的で戀愛の徳と穩健を害する結合を申し出すとか、男は女を彼の慾望の爲めに『犧牲にする』とか、兎に角かう云ふ色々なことが云はれてゐる。然しすべてかくの如き説は無價値である、何故なら戀する女は自分の眼にも男

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の眼にも自己が墮落してゐるとは感じない、また彼女は『犧牲』と云ふやうな考へはなく、ただ與へて取ることを知つてゐる許りである。何故なら女は男よりずつと深い意志で愛の完全なることを欲する、由來女子の春的要求は男子より穩やかではあるが强い。然し女子が屢々――そして時々長い間――無意識なのは如何なる代價を拂つても戀愛によつて幸福ならんとする彼女の深い慾望の根底に子供が橫はつてゐると云ふことである。男子は單に女子の欲求をのみ見る、そして彼の幸福なる微笑は屢々勝利の容易なることを語つてゐる。併し男子は何時女の愛が犧牲になり、何時彼女が自分の位置を貶められたものと感じ始めるかを知らない、そして彼女も長い間自分を知らない。男は女の微笑が何を隱してゐるかを知らない、男子は女子が沈默してゐる時彼女を理解しない、そして恐らく彼は彼女の話す時耳を傾けない。男子はかくして女がそれ以上の要求に飢え初める時、なほ滿足せしめられてゐると信じてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

下田次郎氏に　　野枝

――日本婦人の革新時代に就いて――

六月一日の婦人評論誌上での「日本婦人の革新時代」と云ふ論文を拜見して到底私は默つてゐる譯にはまゐりませんから少しあの文に對しての私共の考へを發表して見ます。

私共は勿論あなたをさう知つてはゐませんけれども斯んなに迄婦人問題に對して無智な而して無理解な方だとは思ひませんでした。少くとも愚劣な世間一般の教育家等と同一視してはゐませんでした、併しあの論文を拜見しては全く呆れてしまひました。

この前早川氏の論に對して申しあげたと同樣で別にとりたてゝ書くほど根本の差異を見出すことは出來ませんが私共としては早川氏の議論より以上にあの論文によつては侮蔑されました。それはまた、私共としては早川氏に對しては殆んど何等の注意をも拂つてゐなかつたのに對してあなたは多少讀書をもしてお出になり婦人問題に多少の興味をお持ちになると云ふことを聞いてゐました丈けに、もう少しは正當な智識と公平な批評眼を供へてお出になるだらうと云ふことを思つてゐましたから、それにも依るのだと思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あなたの私共に對してなされた批評は充分な學識と思慮とを蓄へてゐる方としてはあまりに見當違ひな不徹底な無恥な評で御座いました。あなたの私共に向つての理解はすべて虚で終つて居ります。あなたが私共に向つてさも尤もらしく眞向にふりかざしてお出になつた、私共に對する智識は唯だあの虚僞で殊更らしく誇張し捏造された新聞雜誌の記事やそれに依つて傳へられた世評に過ぎません。それをもつて一ぱし私共の事を御存じのおつもりでゐらつしやるのが既にもう大變な間違ひであることをお氣づき下さいまし、それも新聞や雜誌の記事に依る外に全然私共を知る機會も何もないと云ふのならば仕方がないとしても私共は別に立派な忠實な自己の表現につとめて居ります。例へ反對の議論をなさるにしても何故もう少し正當に私共を知らうとは努めて下さらないので御座いませう。本氣にしろ冗談にしろ知らないことに向つて口を開くと云ふことは輕卒な事だとお思ひになりませんか。なほその上にくだらない座談ならば兎に角あゝした殊に婦人の雜誌に掲載してあなたお一人の誤解があなたお一人に止まるのではないことも責任をもつて考へて頂き度いと思ひます。私共は如何に小さく無知であつてもそんな無責任な不忠實なことを口にするほど無自覺になり得ません。あなたのこの文をざつと目を通した丈けでも私共に對して無自覺だなどゝ仰言る資格を缺いてお出になることが解ります。自覺は女ばかりのこ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とを云ふのでは御座いません。

「元來新しい女と云ふものが彼等自身には意義あり主張あり理由ありそして我々から見ても何かの眞理を含んでゐるに違ひないとしてもそれは今の日本に取つてはあまりに輕卒すぎる態度をとり、どうも西洋の新しい女と同樣に尊敬するに躊躇すべき點が多いやうに思はれます――」

何と云ふ曖昧な云ひ方でせう、私はハッキリとその意味が分りません。多分それは「何か意義があることには相違ないが日本の普通の社會でそれを認めてゐないからまだ尊敬するのには少し早いと云ふ意味なのであらうと私共には察しられます。如何で御座いませう。これははつきり伺はなければ何とも云へませんが併し多分さうだとすればあまりに世間體をのみ憚つた卑怯な云ひ分だと云はなければなりません。この言葉によつて丈けでもすでにあなたには何等のあなた自身丈けの中心生命だとか生活とかゞあるのではなくあなたも普通一般の人たちと少しも違はない無自覺な方だと云ふことが分ります。あなたのすべてが世間の都合次第で動くのであると云ふことが憚らずに云へます。

序でにまた、あなたは西洋の新らしい女と日本の新らしい女を比較なさいましたが併し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

あなたは本當にそれを御存じてはないのです。どれ丈けの差異があるかを御存じないのです。ボンヤリした考へからボンヤリしたことを仰云ひました。私は今茲に日本の私共二三の婦人の間に芽ぐまれて誤解されつゝある婦人問題がどの位な世界的な地位にあるかを、もつとあなたの御考へより以上に確實にあなたにお知らせしたいと思ひます。私は私の「婦人解放の悲劇」のらいてう氏の序文の一部を拜借します。

「——世間の多くの人々はまだ婦人問題とさへ云へば直ぐ英米のそれを聯想し日本に於ける婦人問題もその直接影響の如く思ひ直に參政權運動にでも及ぶものゝやうに考へてゐるものが識者の中にさへ屢々あるやうだが少くとも私共二三の婦人の間に現在動きつゝある問題はさう云ふ單なる意味の同一權利の要求をもつて滿足するものではない。もつと心靈の內部から發して來た根本的な廣い意味のものである。よしそれはスカンディナビアや露西亞の作物に現はれた女性によつて刺戟を受けたり暗示を得たりしたことは多少あつたにせよ英米の婦人の思想からは左程何物も得てゐないのは事實である。私共は現代の日本の社會に又は家庭に普通の婦人としての日常生活を營んで行く間に出逢つたいろ／＼な矛盾、就中、戀愛の中に經驗した矛盾によつて覺醒の緒を得たものが多い。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そしてその多くは今日の社會、家庭、又はそれ等によつて敎育されて來た私共婦人自身の中に大なる勢力をもつて常に本當の婦人の生命の伸長を阻害してゐる婦人に對する習俗的な虛僞な思想感情の打破と云ふ形に於て現はれた。思ふに我國の婦人問題はなをこゝ暫くはこの戰ひを繼續せねばならぬことであらう。

さすれば日本の婦人問題は寧ろ獨逸人の中に起つて今日の世界に於ける婦人問題の中で最も根本的な有意義なものとして認められてゐる處のものとその思想の氣脈を一にしてゐるものと云へる。」

私は更にもう一度おたづねいたします。

「何故今日の日本には新らしい女のどういふ態度が輕卒すぎるか？　また西洋婦人の何處を何故に尊敬なさいますか？」

あなたはまた「新しい女の解剖」と稱して五色の酒を呑んだり性の解放を叫んだり昔から莫連女のすることばかりをすると仰言ひました。私はまだ五色の酒を呑んだこともないし性の解放を叫んだ覺えもありません。それはあなたの新聞雜誌記事を御信じなさいました

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ことを證據立てます。私はそれについてもかう書いたことがあります。

『『解放』と云ふのは髮の結ひ方を違へるのではない。マントをきて歩くことでもない。まして『五色の酒』を飲むことでは猶ない。然し新しき服裝を笑ひ女が酒を呑むことを恐ろしき罪惡であるかの如く罵つて高尙がつたり、上品ぶつたりしてゐる人達には解放など云ふことは愈よわかりさうもない。服裝は個性ある者には趣味の表現であり俗衆には流行である。酒は各人の單なる嗜好に過ぎない。いづれも眞の解放とは何のかゝはりもない。『解放は女子をして最も眞なる意味に於て人たらしめなければならない。肯定と活動とを切に欲求する女性中のあらゆる者がその完全な發想を得なければならない。偉なる自由に向ふ大道に數世紀の間橫はつてゐる服從と奴隷の足跡が拂拭せられなければならない。』

併しそれよりも更に私共を侮辱なすつたのはあなたがこれほどに私共に對する注意の不忠實なのにもかゝはらず、平氣で――然うです――ほんとうに平氣な大きな間の拔けた顏をなすつてさも〳〵私共の書いたものを何時でも讀んでゐるやうな顏をしてまるで違つたことを云つてゐらしやることです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「寧ろ眞の自覺した女は彼等が雜誌に書いたりする處に現はれて居ねばならぬのと思ひますのに、彼等は多く内容のない走り過ぎた事を喋々して得意になつてゐる丈けです若し彼等に向つて人として、又女性としての根本問題を訊ねましたなら恐らく彼等は明答を與へ兼ねる點が多いでせう。彼等の多くはその主張に眞の根底を有し眞の自覺をしてゐる譯ではありますまい――』

私は、私等の書いたものに就いて眞實に讀んでさう仰云るのならば何を仰云つてもかまひません、寧ろその内容のなさ加減や走りすぎ加減をもつと具體的に示して頂き、そうして考へて見たいと思ひます。若しあなたが眞實に口から出まかせでなくさうお思ひになつたのならば何卒それ丈けの煩をおをしみにならないでお導き下さいまし。お願ひいたします。

それから女性として、人としての根本問題に就て今更らしくこんなことを仰せになるのが分らないので御座います。無論それが解らないでどうしませう、その問ひは寧ろ私の方からあなたに向つて掛くべき問ではないでせうか？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「新聞や雜誌の記者に煽てられて新しい女になつた」

とは御尤もな仰云り方です。彼等が新らしい女にしたのは事實です。併し煽てに乘つたおぼへはありません。私共は新聞雜誌によつて動かされるほど淺薄な安つぽい流行物でははじめからないのです。彼等が勝手に上げたり下げたり散々騷いで騷ぎつかれてひつこんだまでゝす。併しそんなものによつて調子づいたり悄氣たりするほど無自覺には到底なり得ませんでした。私達の仕事はをなじ調子です。それ處ではなく、この頃は前よりもずつと一體に進んだ跡をハッキリ見ることとさへ出來ると私達は思つて居ります。私共の存在が認められなくなつたと云ふのはあなたのやうな新聞や雜誌にうか〳〵つられて一しよに騷いてゐた野次馬丈です。野次馬には眞相と云ふものをとらへることは出來ません。ものを正當に批判することが出來ません。無智なヲッチョコチョイを云ふのです。おわかりになりましたか。野次馬を相手に野次馬の鼻息を伺つて事をするのは際物師と云ふ何の根底も持たないヤマ師のことを云ふのです。際物師は野次馬連が興味を失ふと同時に、存在を失ひます。あなたの眼に映じた新らしい女は際物師なのでせうね。そしてあなたは野次馬!オヽ何たる光榮でせう?

野次馬にかつがれることの光榮は不純なものを除き、團結を固くし激勵されることによ

つて償はれます。野次馬に見はなされた此の頃やつと私達の時が來ました。これから、一歩一歩私達は着實に氣長に本氣になつて歩くのです。

あなたは見榮坊でゐらつしやいますね、悧巧でゐらつしやいますね、あなたは無自覺な賢母良妻主義でゐらつしやいます。それでゐて阻むに阻めない思想界の勢力をよく御存じです。あなたのやうな自己の中心生命を世間の都合次第に委した方は他日賢母良妻で世間に許されなくなつた時の逃げ道にいゝ加減な曖昧な態度をとつてゐらつしやいます。それは直ぐにも分ることとです。あなたは一方に「新らしい女の態度は輕卒だ」などと仰云りながら

「大正の今日は大いに新らしい女の出でざるべからざる時代であります」と仰云ひます、かと思ふと今度はまた

「現在の日本は決してまだ西洋諸國と同じ國情になつて居りません。漸く國民的自覺に入つたばかりではありませんか。文學上の新しい運動が起つて無自覺な思想界の眠りを覺ましたのも數年來のことであれば國民に政治的興味が萠して政治運動がモッブ手をはなれたものも昨今の有様です。そんな國には男子に反抗して「女」を主張し「人間」を主張

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

するやうな婦人が出て來るには早い」と仰云ひます。そのくせ前には、「眞の自覺あり反省あり人間としての自己を意識し個人格を尊重して新運動を起さうとする婦人あらば大いに歡迎する者であります。」

こうなつて來ますと只ださへ頭の動き方の鈍い私はもう何がどうなのかわからなくなります。矛盾もかう復雜になりますと誤摩化されてしまいます。

人間としての自己を意識し個人格を尊重して新運動を起す婦人があれば歡迎するが、しかしその新らしい女には家庭を破壞され男子に反抗し酒を呑んでは困る――何と云ふ考へなしな言葉でせう。人間としての自己を意識し個性を尊重する者が現在の日本の社會制度や家族組識に滿足してゐられると云ふことが出來ればそれは實に奇蹟だと思ひます。日本のすべての道德習慣は絕對に個人と云ふものの立場を無視してゐます。本當にさう云ふ自覺あるものにどうして我慢が出來ませう。突然何の理由もなしに家庭を破壞したり男子に反抗したりするものが何處にあり得ませう。それは實に止むを得ない信念と信念の衝突がさうさせるので御座います。凡て、私共の周圍の何處を見てもまだ本當に個性を尊重し合つて相互に何の虛僞をも交じえずに生活してゐる家庭が本當の家庭が一軒にしろあり得ませうか。何處を見ても殆んど親は子を欺き犧牲にし、夫は妻を虐げ僞り子は親を憚り妻は夫

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

を恐れ恨みながらも唯だ一つ何の權威もない道德や習俗に壓伏されて何氣ない顏に知らぬふりしながら何の不滿も抱かずにたゞひたすらにその日を送りたい爲めばかりに主人の鼻息を伺つてゐて自身を省みる暇をも見出せない人たちのみである。さう云ふ家庭に何で自意識ある者がどうして例へ一日にしろ堪え得られませう、又無自覺な、わがまゝな傲慢な男子に何で反抗しないでゐられるものですか、侮辱される丈け侮辱され踏みにぢられる丈け踏みにぢられた婦人が底の底まで考へ沈んだ上での止むを得ない要求によつて醒まされた靈は再びもうどんなことがあつても曇るとはありません。それは極めて自然な事實だと思ひます。それにもかゝはらず、多くの男子はたゞ自分達の手から幸福をうばはれるかのやうに性をまでも無視して恰かも男子と同樣にすべての具體的な權利の要求をでもしたりまたは、一概に家庭を呪つてゐるやうに思つて何か自覺と云ふことを恐ろしい事でゞもあるやうにそれ等の婦人に對して攻擊の矢を放つたり壓迫をこゝろみたりする間は、男子に反抗せずにはゐられないでは御座いませんか。私達は別に今の家庭組織を何んでもかんでも更へやうと云ふのではありません。たゞ組織は今のまゝであるとしても家族の人々の個人々々の自由をもう少し尊重するやうにしさへすればそれでよろしいのです。親子にしろ夫婦にしろ、お互ひに噓をついたり誤魔化したり邪魔を仕合はないー自分の考へを例

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

令それが子供にしても、無理に他人の上に强ひると云ふことをつゝしみさへすればそれでいゝのだと思ひます。各人が皆他人の考へを强ひられるやうな機會を造らない位に自分のことを忠實に考へられるやうになりさへすればそれでいゝと思ひます。家庭を破壞するとか男子に反抗するとか云ふとは畢竟男子に本當の自覺がないことを證據立てるものです。男子が眞に自覺し、女子を理解して女子を自分たちとおなじ水準の上に立たして、正當な同情と尊敬と批判が出來るやうになりさへすれば家庭を破つたり男子に反抗するには及ばないではありませんか。家庭の悲劇や男女の爭鬪は凡ての男の無自覺無理解を表はすものであると私は思ひます。

それはさておき、「人間としての自己を意識し個人格を尊重して新運動を起す婦人あらば大いに歡迎する」と仰云りながら「政治運動が野次馬の事をはなれたのも漸く昨日今日の有樣だ、そんな國には男子に反抗して「女」を主張し「人間」を主張するやうな婦人が出るにはまだ早い」と仰云ひますがどちらがあなたのお考へなのかそれもハッキリ伺ひ度いとおもひます。

國家と個人との關係なんか改めて申あげる程のこともないでは御座いませんか、個人の自覺がなくて、どうして國民的自覺だなどゝ云ふことが出來ませう、私はまだ本當に自覺

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ある國民だなど〻日本の人達を思ふことは出來ません。すべての宗教家、哲學者、文學者、教育家の群れをどう見ても眞實に、忠實に自己の信條を守つて、自覺的な行動をとつてゐる人は、殆んど見あたらないと云つてもい〻位だとおもひます。それは六ケしい理論や何かの上からは理解の行き屆いてゐる人達であるかも知れませんがその人たちが俗社會に對する態度は何うでせう、凡ての習俗に屈從し、社會に媚び、さうしてそれ等に對する矛盾撞着を苦もなく片隅におしこめて平氣に濟ましてゐるのです。さうして、ただ、ひたすらに外面的生活の安定をのみ氣づかつてゐるのを見てどうしてそれを自覺ある人々だなど〻おもへませう。「婦人問題」は婦人だけの問題でなく、人間としての大問題であると思ひます。男女の等しく考へなければならない問題だと思ひます。それを、男は習俗を楯に多數をたのみ社會上の實權をかざしてただ眞面目なもの〻主張を壓迫し、嘲り罵り、不法な、卑怯な態度でこれを葬り去らうとあせつて居ります。幾百年の昔からたゞ奴隷たるべく教へられて來た、無智な女は彼女等の細胞の一つ〳〵にまでしみ込んだ奴隷根性から脫し得ずに無自覺にして傲慢な男子に附加して自分等の爲めに戰はうとするものをおとしめるのです誰一人眞實に考へやうとするものは御座いません。何と云ふ情ないことでせう。あなたは「現狀をどうすればい〻かと考へる婦人が必要だ」と仰云ひます。私共もさう思ひます。考

へてくれゝばいゝ、本當に自分の周圍を見まはして考へて下さいとすべての婦人にお願ひするのです。けれども誰が考へることをいたしませう、考へれば其處に、何に對しても不滿を見出さずにはゐられません。到る處周圍と爭はねばなりません。周圍との爭はまだ堪えられるとしても自分の內心の爭鬪の苦悶に堪え得る人が果して幾人あるでせう。我々日本の婦人はさうした敎育どころではなく、暗示もうけ得ないでゐます。何の訓練もなされてはゐません。たゞ奴隷としての敎育のみしか受けてはゐません、あなたは其處までお考へになりましたか、あなたのお考へはいゝ加減です。本當にいゝ加減です。「女」を主張し「人間」を主張するには早いと仰云いますが、では「女」でない「人間」でないのは何でせう。あなたはあなたの奧樣とあなたのお子樣を人間としてお認めになりませんか「女」とお認めになりませんか。

「あゝ、何と云ふいたましいことでせう、情ないことでせう、氣をつけて仰云ひまし、私達はとうてい默つて聞いてはゐられません。」

あなたは社會の多くの人から、多大の信用と尊敬を受けてお出になります。それだのに何故こんな輕卒なことを仰云るのでせう、私にはとても堪えきれないことばかりです。私

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

はもうこの上に何かと云ふ勇氣はありません。私にはあなたの氣持はよく分ります。けれども私はあなたのその氣持をぢつと睨みつめてゐることは出來ません。あなたはただ、もう前から幾度も申上げた通りに自分を世間に托してゐらつしやいます。あなたも社會と云ふ暴君の下に縛ばられた、奴隷でゐらつしやいます、ですからあなたはたゞ社會からつきはなされると云ふことの恐怖で一ぱいになつてゐらつしやるのです。あなたには中心がありません。社會と一緒に動搖してお出になることがよく解ります。私はそれをあなたお一人だと云つて責めはいたしません。すべての人が皆さうなのですから――たゞあなたは、學識もあり、地位もあり、相當の年齡でゐらして、もう、一通り自家の立派な見識をまがりなりにも持つてゐらつしやるのだと思つてゐました丈け私は今更に多數の力と云ふものを恐ろしく思ひます。そして一層いたましく感じます。何卒もう少し、何を仰ひるにしても自分をお考へ下さいまし、そして責任をもつて仰云つて下さいまし私はそれをあなたばかりでなくすべての人にお願ひしたいと思ひます。

あなたの仰云つた家事のことについても云ひたいことはありますが矢張り根本は少しも前とは違ひません。機會があつたらまた申します。何だか云ひまはし方の下手なことや云ひたりないことを感じますがこれで止めます。思ひ出したら六號の感想の中に書きます。お

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

讀みになつて下されば幸に存じます。

三、六、二一、

藝術家の秘密　オリーブ・シュライネル

或る處に一人の畫工がありました。

他の多くの畫工は種々の珍らしい高價な繪具を使つて非凡な繪をかくにも拘らず此畫工の使ふ繪具はたつた一種でした。そして其の色は赤ですが其の赤は不思議な光りを帶びて居ました。人々は其の繪をようく見まして其の技巧と不思議な光澤を賞めたゝへました。そして

「何處からあなたは此の繪具を手に入れましたか」

と聞きました。が此の畫工は

「お話しする事は出來ません」

とニツコリして答へました。そして頭を低く垂れて自分の仕事を續けて居ました。

此れを見て其の色に驚嘆した或る人は遙々東のはて迄も行つて高價な繪具を得まして畫をかひて見ましたが、間もなく其の色は褪せてしまひました。又他の人は古い本なぞ引き出して調べてから立派な色を作りましたが、それもキヤンバスへ塗られてから直き消へてしまひました。

不思議な色を使つて居る此の畫工は追々と仕事を進めて居ましたが彼の赤は愈々濃厚に愈々光りを增して參りました。けれども彼の顏色はだん／＼白くだん／＼青白くなりました。遂ひに或る日の事人々が彼れの繪を見に行きました時彼は其の繪の前に倒れて死んで居ました。人々は彼の周圍の凡ての繪具皿や壺のやうなものゝ中を調べて見ましたが繪具らしいものは何にも見當りませんでした。

人々は彼に屍衣を着せやうとして常衣を脱がした時、彼の胸の左の方に傷痕を見出しました。其は古い／＼傷痕でした、恰も彼は其の傷を子供の時から抱へて居たかのやうに見へました。何故なら其の傷の緣はすつかり堅くなつて居ました。けれども凡てのものを封じ込めてしまふ死は其の傷の緣を縮めて其の傷口を塞いでしまひました。

人々は彼を葬りました。が未だ彼等は疑の目を見張つて

「あの畫工は何處であの繪具を見付けたのだろう」

と云つて居ました。

暫くすると此の不思議な色を使つた畫工は人々の心から全く忘れられてしまいましたが彼の遺した繪はいつ迄も／＼死にませんでした。（わか譯）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夏木立

矢澤孝

うらみ去りしひとの面かげうかび來るたそかれどきの弱きこゝろに

こゝろには君を見まもりはなやかに多くかたりぬ七人のなか

あなにくし胸のほこらの奥にひむ君をあしげにうわさするひと

夏木立おほ青そらの眞晝とき汗ふく顏のうつくしさかな

あすをわれいかでたのまむこの刹那君が神ともいつかれながら

なほいまだ少女こゝろを失はず母にそふ子は年たくれども

わがおもひ君が上をば離れねば世にとほざかる隱者のごとし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夏の花――齋賀琴

別るれば憂き事しげき身ながらにいとはなやぎてものを云ひけり
もの云はゞ涙こぼれむ何事ものたまふがまゝうなづきてゐぬ
運命に手をとられたる心地にて君が言葉をうなづきにけり
おとなしく君が言葉をきゝ入れて涙も見せず去らむとぞする
小鳥小鳥汝が啼く聲のいとしさにわれうつつなく梅林に入る
いかなる日忘れて心靜まらむあわれに死をば願ひそめける
歩み來し一路の旅のくさぐ〵の思ひ出にしばし心やすらふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

最近の感想

七日間の旅

らいてう

あらゆるものを全體として感じ、味ふことが出來なくなると、私は自分の内生活の遲緩、墮落、自我の縮少を感じて居たゝまらないほど不安になる。その時私はいつも心に旅へ、旅へと叫ぶ。自分が部分的にしか生きてゐない、自分の全生命が動いてゐないといふ自覺はいつも必ず生き苦しい頭の壓迫感や、疲勞の感覺に伴つてゐるから、殊に私は是に對して或恐怖さへ有つてゐる。そして自分の過敏な神經や、感じ易く、疲れ易い肉體が呪いたくなる。かうして私は旅に出る、殆と本能的に旅に押し出されて行く。

○

自然と向ひ合つてゐると私は次第に興奮して來る。その興奮によつて私の心は洗はれる。そして純粹になり、新鮮になり、透明になり、いつか情熱的に自然の中にはいつて行く。けれどこの興奮は人事に於けるそれとは違つて、情熱的になればなるほど却つて沈靜的なのを感ずる。しかも持續性をもつてゐる。いかに高まつてきても、熱してきても、張り詰めて來ても、それが局部的でない丈、又對象とするものが所謂有情のものでない丈、容易に外に向つて破れない、そして放散して仕舞はない。一杯になつたまゝいつまでも湛へられてゐるといふやうな爽快な充實感が續く。たとへ感激の頂點に達する場合があつてもそこには恍惚があるばかりで何の苦痛も、動亂も伴はない。しかも私共が興奮後によく味ふあの一種の空虚や、寂寞や疲勞の感を殘さない。私はこの心境が——靜かにのぼり詰めたこの心境がたまらなく好きだ。波の音、風の聲、鳥の囀り、總ての現象が皆全宇宙そのものを直接自分に見せてくれる。感じさせてくれる。味はせてくれる。私はかうして生き苦しさから救はれる。昔の人達が法心などと呼んだ心を再び自分に取戻す。

○

自分のかういふ心境がわけもなく尊く感じられた時、私は都會にゐた昨日までの自分を馬鹿々々しいものに思つた。自分自身の中に一杯に詰つてゐる苦悶、自分自身の問題や、人間の問題や婦人の問題 自分の仕事として大切にしてゐるもの、これ等に何程の價値があらうぞ。殊に今自分が逃れてきた周圍の有象無象の壓迫や、無自覺

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

な社會、多數者の無法なけれど大きな力これ等が一々癪に觸つたり、腹が立つたりする自分、又事々に意識して何とか價値の判斷を下さればゐれられない自分、かういふ自分が誠にちつぽけな、けちな、みぢめなものに思はれて來てならなかつた。

「お前は何だつてあんなにこせついてゐたのだ。自然は人がどうならうと、社會がどうあらうといつもかうしてゐるぢやないか」
と大きな聲で自分を嘲笑つてやりたいやうな氣がした。

「何も苦しむに及ばない、怒るにも及ばない。何も考へることはない、働くこともない。かうしてゐればそれでいゝのだ。」

○

けれど私は屢々斯う思ふ。かうして自然に對するさき、それを全體と觀じ、且つ味ふこさの容易な自分が何故人生に對しては困難なのだらう。といふのも畢竟は自分がまだあまりに弱いからだらうか。私は人生に對しても人生のいかなる些末事に對してもそれを常に全體として感ずることの出來るものとならねばならぬ、と。

○

私はこの頃何よりも先に強いそして美しい肉體をもちたくなつた。自分の中に潜んでゐる生の力のあまりに稀薄なのを感ずるとき、自分の肉體的エナージーのあまりに乏しいのを感ずるさき、私は殘念に思ふ。(殊に戀愛の經驗の上に於て)そして自分の生活でも思想でも一つとして自分の纖弱な貧少な肉體の上に基礎を置かぬものはない、かういふ生理的事情の影響を受けてゐないものはないと思ふと、何より先に立派な強い肉體をもたれば噓だと思ふ。尤も思想や生活が肉體を改造するこさは自分も知つてゐる。今の自分の肉體がとにかくこれ丈の健康を保つてゐるのは過去の自分の思想さ生活の賜だといふことは知つてゐるけれど。

○

私は今迄旅さいへば大ていは獨旅だつた。そして旅の味は獨旅でなければ味へないと思つてゐた。今もさう思つてゐる。けれど今の私は自分の愛するものをおいて獨り旅に出やうとは思はない。それは到底今の自分にはなし得ないことだ。私は旅先きでの色々な壓迫を豫想しながらも、ふたりで旅に出るさいふことを丁度小學校の子供が遠足に行くやうな心でよろこんでゐた。愛するものと四六時中共にありたいと願ふのは總ての人の心であらう私も又さうありたいと願つてゐる。けれど自分は朝から晩まで同じ室にゐて自分の愛するものと顏と顏とを合せ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

てゐることには堪へられない。机を並べて一緒に讀書をしたり、書きものをしたりすることも自分には出來ない。いゝ加減なことをしてゐるやうで苦しい。それは愛するものには限らない、氣兼ねのない友達とでも、又何の交渉ももたぬ他人とでもさうだ。けれど愛するものに於て殊更さうだ。只自分の側に人が座つてゐるといふこと——只それ丈のことから私が感ずる壓迫や不安はどれ程だか知れない。だから半日たゞ人と同室した後の不愉快な疲勞はとても他人の想像外なのだ。私は自分のこの非社交性と孤獨癖といつも戰つてゐる、そして私はこの不自由や苦痛から自分を救ひたく思つてゐる。かういふものから愛されるものは、愛されるものにとつても苦しからうと思ふ。

○

「自分はほんとうに人を愛することの出來るものだらうか、又ほんとうに人の愛を受け容れられるものだらうか、」私は愛しつゝある瞬間に於てさへ折々かういふ疑問に惱んでゐるのを知つてゐる。そして自分の中にある愛のために用ひらるべきエナーヂーのあまりに乏しいのを思ふ。

かうして海に近い温泉宿に來て何に妨げられることもなく、愛するものと同じ湯にはいつたり、寛い筒袖のおそろひの輕い浴衣を着て、鮮魚の膳に向つたり、枇杷山に登つて思ふまゝに枇杷を食べたりして遊び暮すといふことは一つの大なる喜樂に相違ない。自分とて。それを享樂し得ないやうなものではない。けれど一日の中に必ず眞に孤獨な多くの時間を有つことなしにふたりの生活を續けることは自分には到底堪へられないことだ。

人、ひとりなるはもとよりよくないことであらう、けれど常にふたりなるも自分にとつては等しくよくないことだ。自分達ふたりの愛の生活が自分の孤獨な生活に食ひ込むやうになるのを感ずることは自分にとつては大きな不安である、不滿である。

かういふ時、私の眼は愛するもの丶上に邪見な色を含んで冷かな光を投げてゐることだらう。私の顔のどんな微かな表情も見のがさない男は自分が今慕ひなつかしんでゐる女から煩はしいものと見なされてゐるとでも感じた、その瞬間の不愉快はどれ程だか知れまい。かう思ふと私は氣の毒なやうな、可哀相なやうな、たまらなく濟まないやうな氣がして、それが又妙に苦しくつてならない。

「自分はほんとうに人を愛する資格があるのだらうか、人の愛を受けいれる丈の或るものを有つてゐるだらうか」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

○

婦人の本性は矢張り愛である。婦人の眞生命は愛である。本當に生きやうとする婦人の努力と戀愛との間には矛盾のあるべきものではない。と自分の理解はいふ。それは噓ではない。自分は今もさう思つてゐる。けれどそれは實際の自分を外にして概念的にさう考へてゐる丈なのだつた。自分の生活の中心は戀愛となつてゐるか、自分は戀愛から眞生命を得られてゐるかといふとどうもそれは自分には出來がたいことのやうにも思はれる。

自分は人を、たつた一人の人さへほんとうに愛するこの出來ないのを悲しんでゐる。苦めてゐる。そしてどうかしてほんとうに愛さうと努力してゐる、けれど一方には人を愛し、人から愛されることから逃れやうといつも願つてゐる自分があるやうだ。

こんなことをいつても自分の心内の爭闘は的確に表現されてやしない。何故なら今の私にはまだかういふ自分がほんとうには分らないのだ。今自分が感じてゐるの矛盾、葛藤の正體がまだしつかりとは摑めてないから。都會から、社會から多数者の力から、自分の小さな問題や仕事から逃れて「全體」と語らうとしてゐる自分は最後に只ひとりの愛するものからも逃れてひとり海岸に突出した高い辨才天の祠に腰かけて長い〳〵間海の面を凝視して居る時もある。

けれど又次の瞬間は更に鮮かな生々しい愛が私の内に蘇生つて來る。そして新なる力と重さを加へて私の心は又愛するものの上に強く向ふ。

○

愛すれば愛するほど、接近すればするほど愛するものに對して氣むづかしく、小やかましくなる自分を見るのは苦しい。(私はそれを一々外に現しては居ないけれど。)それは自分の如く愛するものを思ふからだとは知つて居るけれど。

○

ふたりの欲求が一つに出ないことは悲しいことだ。たとへその欲求が質を同じくするにしてもその量を一つにしないことはこれも亦相愛生活に於ける一つの不幸なる事實である。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

○

引越の日、曙町の家から手傳ひに來てくれたともちやんは（曙町の家で働いてゐる娘で此人は以前から私のことに關する一寸して新聞や雑誌の記事でも見のがしたこ

とがない、いつも見付けてはどんなくだらぬことでも一々私に知らせにくる。私は今迄大抵のことはこの娘からきいたのだ。）この間の「朝日」を御覽になりましたか、あなたが孤兒だなんて出て居りました、誰れがあんないゝ加減なことをいふのでございませう、あんまりでございますね」と言つた。この間は私が母になつたといつたかと思ふと今度は孤兒だと云ひ出す、私は何と思つてこんな御話を考へ出すのか世間といふものはおかしなものだと思つた。其後新しい家の方もほゞ片付いたので、曙町の家へ行つて見た。すると私に關するどんな馬鹿々々しい記事が新聞などに出てゐても、今迄ついぞ、何とも言つたことのない母が「お前が孤兒だなんて新聞に出てゐましたよ、知つてますか」と云つた。その顏には輕い憤怒と「そんなことを云はれてだまつてゐるものがあるものかとでも云ひたいやうな私に對する不滿足の色さが動いてゐるやうだつた。私は何だかその顏を見て氣の毒になつた。こんなによく似た母と子を（私は殊に母によく似てゐる、顏ばかりか、一寸した言葉使ひも身振りも性質までも母のいゝ處わるい處を自分の上にあまりよく見るのをどうかすると恐ろしく思ふ時もある。それに女中などは私と母との聲があまりによく似てゐるのでどちらが呼んだのかわからないで困るさよくいつた位だつた。）しかも自身が死ぬ苦しみをして生んだ世にも二人しかない愛する娘を實の兒ではないなさ世間から云はれることさは普通の母親さしてはほんとうにつらいことなのだらうと思つた。殊に朝夕忘れる暇もなくあゝもしやう、かうもしやうさ色々な希望をかけて苦しんで育てた娘が、大きくなつて見れば自分の期待とは丸で違つた者になつて親からも離れて娘は娘で自分自身の道に行かれて仕舞つた今日、それは母親といふ立場から見れば大きな悲劇であるのに、その上自分の子ではないなどゝ云はれることはどんな にか悲しい苦しいこさなのだらうなどゝ思つた。友ちやんのもつて來た朝日新聞の東人西人さいふ處を見ると私ばかりか私の姉までも孤兒ださなつてゐる。おまけに大學時代に受けた或る動機から男子に對する反抗心を高めどうしても男子を自家の前に屈服させればならぬと決心したのだなどゝ愚にもつかぬことさまで附記してあつた。こんな記事に對して眞面目な口をきくのも愚なやうだが、大學時代の私はまだ女性としての自覺を全くもつてゐなかつた。私の世界には男性といふものがまだ存在してゐなかつた。その當時の私に男子に對する反抗心を高める何の動機があり得やうぞ、お話も結構だが人に迷惑をかけるやうなものはもういゝ加減にして貰いたいものだ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

巣鴨村より

岩野清

私は一年中のうちで、晩春初夏の頃が、殊更好きである。若葉の色が日に〳〵濃くなつて、其葉をこして來る冷や〳〵した空氣に身をひたしてゐると、愛をさゝやかれてゐるような、うつとりした感じが起る。併しそれよりもまだ好きなのは雷雨である。人間の小さな猜疑や、嫉妬や、憎惡、爭鬪、さう云ふすべての醜惡も姿をちゞめて、只生命大事と戰慄させるあの崇嚴な雷雨、私はあの驟雨が好きだ。私が十二三歲の夏であつた。或日非常な大雷雨があつて、落雷も四五ケ所あつた。私は其當時神田猿樂町にゐたが、庭に下りて空を仰いで、屈折する桃色の光りの美しさにみとれてゐた。と、間もなく、戸障子がビリ〳〵響けた程の雷鳴がした。私は聲を放つて『ほんさに氣持のいゝ音だ』と、云つた。さうして、父に『他人がこわがつてゐる時に、そんな事を云ふものではない』と、いましめられた。父は武士氣質の大膽な人であるが、さすがに私の物怖しないのには驚いてゐた。私は其頃から死に對して恐怖をもつてゐなかつた。これも其時代のことで、今も記憶に殘つてゐるのは、或惡壯士が父に金を貸せと强請した。父は私は金貸ではないから、と一言のもとにはねつけた。處が或夜其壯士は、手下を二人連れて仕込杖を持つて、父をおびやかしに來た。父が銀烟管を逆手にもつて、それらの壯士と云ひ爭つてゐるのを、私は次の部屋で寢床の中から見てゐた。彼等が仕込杖の鯉口を一寸位ぬき出してゐるのも見えた。私は聲も立てず、泣きもしなかつた。彼等が巡査に引かれて去つた後、父は『よく泣かなかつた。私はもしお前が泣き出しはしないかと心配してゐた。』と云つた。父は私を話す時には、よく此事を云つて、『これは女にしては中々大膽てす。』と笑つた。私は此時分、友達が、雷を恐れたり、顏に髯の多い人を恐れたりするのが不思議だつた。私のかう云ふ性質は今日までも、まだ續いてゐる。私は此自分の性質を、死の恐怖がない結果から來てゐるのだらう、と思つてゐる。併し最近母となつた私は、今迄のように死に對して無關心ではゐられなくなつた。子供が、保護し、導いてやらなければならない責任を感じて來たと同時に私の命も、其責任をつくすために、出來る限り其時まで保ちたいと云ふ考へが起つて來た。

　私は、自分のかうした心の變化を、最も本能的な感情の發現だと思ふ。私はかうして一歩一歩、子と云ふものに引づられて行く自分を靜に見つめてゐる。私は出產の當時子に對して、永年使ひなじんだ手道具よりも淡い感

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

じしか持つてゐなかつた。自分の愛情が子の哀樂と、共鳴しようとは想像もしなかつた。併し私は、あの出產の際の困難と苦痛とを徒勞にしたくない爲め、嬰兒の健全な發達を望んでゐた。私の此心持は、子と母との盲目的な愛情と云ふよりも、只私の利害から打算した執着に過ぎないと思つてゐる。

けれども嬰兒が漸々と發育するに從て、私は、嬰兒を、養育に對して充分の智識のない人達の手に一任することさの、不安を感じて來た。

併し私は、私の此の變化を予盾だとは思はない。たとへ今子に對する愛情が進んで來たにせよ、出產當時の冷淡な感情は、此時は眞實であつたのだから。

とはいへ、私は今日に於ても、子のために自分の個人としての生活を全然犧牲にすることはしたくない。又自分の自我生活が徹頭徹尾衝突するとも思はれない。今迄の母親達が、二六時中幼兒を負ひ、かゝへて、それを母親の最善の犧牲としてゐたのは、自ら作つた手數であつて決して止み難い事情ではない。母親たる婦人の習慣のつけ方一つではぶく事が出來る。さうしなければ子に對して冷淡のように考へるのは、眞實の愛と云ふものを理解しないからである。私はこんな安價な犧牲よりも、親さしては、もつと、子に對して考へなければならない事が多くあると信じてゐる。

私はかう思ふ。親と子とは、各二つの異なつた個性を持つた人である。だから親と子は必ず全じ道をとつて、步いて行くものとは限らない。さう云ふ場合に、親が子の幼年時代に買した安價な犧牲を以て、子に其報酬として犧牲的に、自分の意志に服從させようと強いるのは、金貸しが債務者に返金を迫るよりも以上に、不法な壓制だと思ふ。親の子に對する愛は、其報酬を得て滿足するのではない。愛することそれが、既に自身に歡喜の滿足を得てゐるのである。然るになほそれ以上に、報酬を子に強いるのは甚だ不道理な事と云はなければならない。は世間の親達がかう云ふ點に於て、無自覺な利己主義者の多いことを思ふ。

私は今親さしてかう云ふ考へで子に對してゐる。

（六月十九日稿）

五月雨の日に

○ みどり

實生活と理想、それは到底同じ足取で進む事は出來ない誰しもそれは感ずる事であらうけれど、私は此の頃この問題を痛切に考へる。

自分は理想を實行する爲めに今の職業をとつたのだ。と

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

叫むでは見るが、果たして左樣であらうか。

自分の理想は藝術にある。今の生活は其の藝術を充分滿足させる事が出來得るか。時間と勞力を空費する報酬として只「金」があるのみだ。矢張藝術や思想の問題よりもパンの問題が總てのものの上に絶對の力を持つて居る。

理想に生きようとすれば實生活を捨てればならぬ。理想はいつも遠い霞の中に美しい姿をして自分を迷して居る。私は理想の後を追ふ事も出來ず、又徹底した實生活を送る事も出來ないとしたら非常に不幸だと思ふ。

私は此の頃左樣思ふ。生きると云ふ事は大切である。精神的にも、肉體的にも、然し私は今は此の肉體的に生きなくてはならぬ。働いて食つて行く、これは餘りに殺風景な言葉かも知れぬ。然し仕方が無い。

何處迄も職業の女となつてベストを盡す、或は其處から何物かを求める事が出來るかも知れぬ。「金」以外に貴い物を………それは何であるかは知らない、兎に角ベストをつくす事が出來ればそれが自分の幸福である。理想にも現實にも行かれず中間を迷ふ者は最も不幸だと思ふ。

○

私は新らしい女になり度い。然し淺薄な思想の上に立つて所謂「新らしい女」を衒い度く無い。新らしい女とは什麼者かと云ふ事も別に考へ度くない。人の眞似をせずに自分の眞面目な信仰の道に向ひ度い。

○

あながち私は女の「性」を輕する者では無い。否、私は非常に重んじて居る。結婚、妻、母、是れは人生の最も大切なものだと思ふ。

私は職業上女の「性」を疑はれる折もある。が私はそれが大變悲しいと思ふ。私はこれでも人の妻である母である。私は女らしいといふ事をゆかしい事に思つて居る。

務めの上に對しては、何處迄も雄々しく戰はればならぬ。男子と同じ活動の社會に出て居る以上、私の心は鋭くはなつて居るが、唯美しい同情と優美は失ひ度くない。

私は家庭を愛する。子供は世の中の何物よりも可愛い。私は僞らず斯う云ひ得るのを誇りとする。私は女の弱點をかくす爲めに自分を僞り度くない。「性」は最も大切なものである。（六月十八日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

フランス語の會

至急御申込み下さい

いよ〳〵七月の十一日から佛語の初歩からの研究會を始めます。希望者は十日迄に岩野氏又は社宛御申込み下さい。

一、毎週水土の二回、夜七時より一時間乃至二時間

一、男女とも。

一、場所は巣鴨村字宮仲二五一七岩野清氏宅。

一、會費は會員數による。

例へば六人ならば二圓、十二人ならば一圓。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

轉居

府下巣鴨上駒込四一一
妙義神社前

（面會日、土曜日午後
右堅く御守り下さい）

平塚明

青鞜社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

編輯室より

□上田彌生子氏の飜譯ソニヤはこれらの處まあまり少しづつ掲載してはほんとうの興味が讀者に起るまいそれでは譯者の折角の苦心にもそむくし相方によくないことだと思つたので四十五頁をつかひましたので二三の原稿は次號に廻しました。折角御送り下さつた方々に一寸御斷りいたしておきます。

□辨解ではないけれど、四日ばかりと思つて出た旅が、矢張り出てみればさうも行かなくて七日あまりも遊んで仕舞つたので、歸つてくると一度に色々のことが集まつて來た。今迄住んでゐた農園前の家は他の人に賣られたので、一日も早く立ちのいてやらればならなくなつた。尤も社を私の家に置くにはあの家は狹くて困るのでどの道引越す筈にはなつてゐたことだけれど。歸つたのか十二日、それから十三日に引越す。私は家が變ると當分はどうも落付けないし、自分の部屋のものの置き場所などが氣になる性だのに、その中で大急きで自分の原稿を書いたり、編輯をしたりしたのだから、今度は何一つ十分なことが出來なかつた。いつも次號々々といふのはいやだけれど次號には自分にも多少の滿足を得られるやうなことがしたいと思つてゐる。

□今日新聞に出てゐる淑女畫報といふ女の雜誌の廣告を見ると、大きな活字で平塚女史と奥村博君の共同生活の現狀などゝ出てゐた。どんな記事が出てゐるのか知らないけれど、私達はまだ淑女畫報の記者の訪問を受けた覺えはない。それから丁度土肥に立つ日だつた、新橋の停車場にゐると博文館寫眞部の人だといふのが私達を見付けて、突然やつて來て、是非一つさらせてくれといつた。だまつてとつて仕舞ふのですけれど、それよりちやんと御斷りした方がいゝと思ふからなどゝいふ。いけないといつたつて、だまつて知らぬ間にさつて仕舞ふのだから、私は仕方なしに許した、併し勝手な雜誌に無斷で出されては困る、出すならその時は前以てその寫眞を一度見せてくれ、そしてちやんさ斷つてからにしてくれといふ條件つきで許したのだつた。然るに其後寫眞も送つてよこさない、その上その寫眞を利用して屹度勝手な記事を作り上げてあんな大げさな題をつけて出したのだらうと思ふと私は彼等のすることのあまりに無責任で圖々しいのが不愉快でならぬ。

消息

□青鞜社移轉、府下巣鴨上駒込四一一妙義神社前（山の手線駒込より二丁）

□平塚明氏移轉同上

□信用するに足るいゝ先生が見付かつたので、本月の十一日からいよ〳〵岩野淸子氏宅で佛語初歩よりの會が始まります。で、今至急會員を集めて居ます。希望者は十日迄に岩野氏宅又は社宛御申込下さい。

一、授業は毎週水、土の二回、夜七時より一時間乃至二時間。

一、會員は婦人を主とすれど男子でも希望次第出席が出來ます。

一、會費は、會員の人數次第で定ります、例へば六人なら二圓、十二人なら壹圓。

始めた以上はすぐやめるやうなことがあつては會の方でも困りますし當人にとつて何にもならぬことですから申す迄もないことですが、續けてやる丈の决心をもつて御申込み下さい。

岩野淸子氏住所、巣鴨村字宮仲二五一七、

□未來社主催音樂會

七月十二日夕七時より丸の内帝國劇場裏の保險協會にて新歸朝の音樂家山田耕作氏のために未來社主催の「リーダー・アーベント」を開く。氏の獨唱曲は、シンマン、シウベルト、ベートヴエン、チヤイコヴスキー、リヒアルトシトラウス、ヷグー等の二十餘曲。伴奏は貫名美名彦氏。會費は一圓、申込は日本橋檜物町東雲堂宛のこと。

□荒木郁子氏は今度小野賢一郎氏と共力して出版業を始められた。先づ手始めに白井權八著美人大學「いろ手帳」と小野賢一郎氏著「新聞記者の手帳」とを出版し尙ほ引きつゞき盛んに極軟い讀み物を出版する由、發行所は美人大學社、神田南神保町一六荒木方。

寄贈雜誌

中央公論　白樺　藝美　女學世界
新思潮　現代の洋畫　風景　六合雜誌
近代思想　我等　新潮　女學雜誌
藝文　生活と藝術　潮　人生と表現
詩歌　層雲　婦女新聞　早稻田文學
みづゑ　蛇の舌　婦人の友　帝國文學
東亞藝術　心の花　秀才文壇　第三帝國
假面　新人　白光　反響
番紅花　月光　新女界　三田文學
卓上　新佛教　南方の花　新小說
海峽　河鹿　自畫像　俳味
アララギ　創造　文藝復興　婦人文藝
サンデー　東洋哲學　未來

寄贈書籍

ゲエテ「我が生活より」第壹卷、(定價三圓)生田長江氏譯　内田老鶴圃發行
春の目ざめ(定價一圓廿四錢)野上臼川氏譯東亞堂發行
新聞記者の手帳(1)定價三十錢　小野賢一郎著　美人大學社發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜社概則

第一條　本社は女子の覺醒を促し、各自の天賦の特性を發揮せしめ、他日女流の天才を生まむ事を目的とす。

第二條　本社を青鞜社と稱す

第三條　本社の事務所を東京府下巣鴨町一ノ一六三に置く

第四條　本社は係員、社員、賛助員よりなる。

第五條　本社の目的を達する爲め左の事業をなす。

一、毎月一回機關雜誌青鞜を發刊すること。「青鞜」には係員、社員、賛助員の生活及思想を發表す。(但し補助團員の寄稿を發表することあるべし。

一、圖書出版

一、時々係員、社員の修養及研究會、並に事業上の相談會を開くこと。(但し賛助員は出席隨意たるべし)

一、毎年一回大會を開くこと、大會には賛助員を招待し講話を請ふことあるべし。

一、時に旅行を催すこと。

一、本社の事業を達する爲め別に補助團を組織す。

第六條　係員、社員、賛助員は女子に限る。

第七條　係員は本社の目的に賛同するのみならず。本社の事業を自己の生命とするものにして專ら幹部にありて、直接本社の事業に從事し。自己にその責任を負ふものとす。係員は毎月「青鞜」の配布を受く。

第八條　係員は在京社員の中より選擧す。

第九條　係員は四人とし、内二名は經營に、他の二名は編輯に從事す。

第十條　毎年九月在京社員會議を開き、係員を改選す。但し再選することを得

第十一條　係員には本社の經濟の許す限りは其勞力に對して多少の報酬をなすものとす。

第十二條　社員は本社の目的に賛同するのみならず本社の事業を自己の生命とするものにして雜誌「青鞜」の配布を受く。

第十三條　社員たらむことを希望する者は住所、姓名、年齡の外に履歷の大體と現在の境遇と入社の動機に十枚以上の原稿と(小說、戲曲、感想、詩歌、評論、譯いづれにてもよろし)最近の寫眞とを添へ本社宛申し込まるべし。

第十四條　賛助員は本社の目的に賛同し、雜誌「青鞜」に寄稿することを快諾せられたる文壇の諸先輩とす。賛助員は毎月青鞜の配布を受く。

第十五條　本社の事業を經濟的方面より助力するものを補助團員とす。

第十六條　補助團員は補助團規約によつて募集す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

會員募集

青鞜社補助團規約

一、青鞜社補助團は青鞜社の事業を完成せしめんがために經濟上の補助をなすを以つて目的とす

二、本團は其目的を遂行せむがために理事一名、外に會計主任及係員を置き一切の業務を處理せしむ。

三、本團は左の方法により九月一日より十二月卅一日迄會員募集をなす。

1、甲種會員　一ケ月會費　壹圓

2、乙種會員　一ケ月會費　五拾錢

四、會費は大凡二ケ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。青鞜社はこれをもつて出版事業を開始す。

五、本團の會員たらむとするものは其目的に賛同し、第三條の會費を入會の月より滿貳ケ年間納むるものとす。

（但し會費領收は青鞜紙上に發表し、別に領收書を出さず）

六、本團は會員に對し青鞜社發行の機關雜誌「青鞜」を毎號贈呈す

七、甲種會員には會費全納後なほ滿貳ケ年間は雜誌「青鞜」と青鞜社出版圖書とを其都度贈呈す。

乙種會員には滿貳ケ年間雜誌青鞜のみを贈呈す。

八、本團會員は甲種なると乙種なるとに拘らず、女子に限りて「青鞜」に寄稿し得るの特權を有す。

但し寄稿が二回以上「青鞜」紙上に掲載されたる場合は本人の希望により相當の手續きを經て青鞜社の社員たるを得。

九、入會申込者は府下巣鴨上駒込四一一青鞜社內青鞜補助團宛に申込まれたき事

會費は毎月五日迄に振替口座東京貳壹壹壹六青鞜社內補助團宛に拂込まれたき事。（郵券代用一割増）

但し會費未納者には本團より集金人を差向くる筈

一〇、會費は大凡三ケ年間確實なる銀行に預金し、其後に於て全金額を青鞜社に寄附するものとす。

一一、會計報告は年一回以上便宜の方法を以て會員に發表す。

一二、この規約は理事、會計主任、係員によつて事務の細則を定め、又會員多數の意見によりて變更する事を得。

理事　保持研子

會計主任　岩野清

雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一冊金貳拾五錢(郵稅壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢(八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五拾錢(一ヶ年分)參圓
■廣告料(一頁)特三十五圓、一等二十圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓
■振替貯金口座は(東京二二一一六青鞜社)に拂込まれたし。
■郵劵代用は一錢切手に限る(但し一割增のこと)。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。

大正三年六月二十六日印刷納本
大正三年七月一日發行

東京府下巣鴨上駒込四一一
青鞜社内
編輯兼發行人　中野初

東京市麹町區飯田町五丁目六番地
印刷人　中山千二郎

東京市麹町區飯田町五丁目六番地
印刷所　大正社

禁轉載

發行所　東京府下巣鴨上駒込四一一　青鞜社　振替東京二二一一六番

發賣所　神田表神保町三番地　東京堂　電話本局四五六一番　振替東京二七〇番

銷夏の伴侶

磯田扇三譯

新刊

ワイルド作

理想の良人

四六判上製
極美裝本
定價
(八拾錢)
送料八錢

原著は「サロメ」の作者として近代文壇に雷名ある「オスカーワイルド」の一大傑作にして、彼の官能生治耽美生活に現はれたる女性を捕へて彼の微妙深刻なる筆を以て寫したる一脚本なり。近代の劇を知らんとする人新らしき女を學ばんとする人は宜しく此一書を一讀せられよ、

(發兌 東京市京橋區南小田原町四丁目四番地 振替口座東京二五四二七番 **泰山堂書店**)(大賣捌店 京橋區南傳馬町 目黑分店)

メレジュコーフスキー著　文學士森田草平　文學士安倍能成共譯……人としての部――森田譯　藝術家としての部――安倍譯

再版

人及藝術家としてのトルストイ　並にドストイエフスキー

總クロース美本　製肖像三葉入　全一冊　正價壹圓五十錢　小包內地十二錢

譯者森田草平先生序の中に云『嘗て自分が文科大學に居た頃、此書を英譯で讀んだ。讀んで面白いと思つた。自分が西洋の小説を讀んで面白いと思つたのは、ドオデエのサッフャーである。論文では即ち此書である。其後サッフォーよりも面白い小説にはいくらも出會つた。が、メレジュコーフスキーの此書よりも面白い論文は一度も見たことがない。』又云『著者の人生に對する批判もさる事ながら、藝術鑑賞の上に於ける洞察力に至つては寧ろ怖しいものがある。若し未だ此書を讀まざる人にして此書を讀んだとすれば、必ずや其人の批評眼を一變したであらう。』

◎雪嶺博士紫影博士臨風文學士鏡花先生等十五名氏序

故田岡嶺雲著◎挿畫、未醒、芋錢、月村

『數奇傳』

總クロース美本全一冊　正價九十錢　郵税十錢

著者自ら序して曰ふ『教育傳一篇、是れ予が生きながら屍の上に建てたる自撰墓誌也』と。

高橋五郎先生譯　▼橋本邦助氏の意匠

フロシフコー『寸鐵』又名人生裏面觀

總クロース美本全一冊　價八十五錢　郵税十錢

◎時事新報評『言々珠玉、光彩陸離として更に言辭を加ふるを容さず、譯筆亦忠實にして能く原文の風味を髣髴せしむ』

版元　東京神田區雉子町　玄黄社　電話本局二〇九番　振替東京七九九五番　●全國書店賣捌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎冊二十八錢……新事業御披露

荒木郁

東京神田
東京堂書店發賣
振替東京二七〇番

堀内合洋氏
浩々詠客氏 序
谷崎潤一郎氏

東京日々新聞記者
小野賢一郎氏著

新聞記者の手帳

好評忽々初版賣切！ 再版出來

新聞記者の眼に映れる社界の出來事は如何にその手帳に寫し出されたるか興味津々、實に銷夏の好讀物にして新らしき一九の道中記を讀むが如し

白井權八さん著 小紫さん序 寫眞入

美人大學 いろ手帳

姫さん一代記、髙千物語、若様隣日記、女優の懺悔話、その他どれも浮世の裏新道横行燈の下を通りぬけねば眞測に世の中を茶化した滋味のはか勝し、面白いと無類而かも下品ならず進善の友にはよきお對手と、いづれも様に一本をおすゝめ致します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

スエデンボルグ著 鈴木大拙先生譯

新エルサレムとその教説

此書は思想界の奇傑スエデンボルグの新基督敎説にして救濟には信と行とを要すること愛即ち意志は人格の基礎なること自由あるが故に善惡あること善惡あるが故に神の榮光彰はるゝこと等の諸説を簡明適切に述べたる快著

三六版箱入
定價六十錢
郵稅八錢

學習院教授
帝國大學講師
鈴木大拙先生著

スエデンボルグ

天界地獄の遍歷者、神祕界の大王、古今獨步の千里眼、神學界の革命家として世界の一大勢力を成したるスエデンボルグの性行閱歷思想、事業を詳述してこの奇傑の面目を躍如たらしむ

三六判箱入
定價五十錢
郵稅六錢

スエデンボルグ著 鈴木大拙先生譯

天界と地獄

歐米の思想家宗敎家を驚倒せしめたる名著にしてスエデンボルグが天界及び地獄を遍歷し親しく目擊感得したる事實を詳述したる奇書なり

菊判和裝
價一圓五十錢
郵稅十二錢

鈴木大拙先生著

禪の第一義(三版)

定價一圓 郵稅八錢

東京小石川原町六 振替東京一五六八六 丙午出版社

東京小石川原町六 振替東京一三五三 鷄聲堂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

帝國文學

七月號

△道德家（喜劇二幕物）……若月紫蘭
△秋（小說、ストリンドベルヒ）……馬場睦夫
△風來女（小說）……大澤貞吉
△追憶（小說）……吉田紘二郎
△篝火（短歌）……吉植庄亮
△近代の洋畫（紹介）……藤浪水處
△雜感（時評）……石坂養平
△六月の文藝（時評）……山田檟椰

大日本圖書株式會社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

自畫像

七月號

■表紙論（ゆきを）

ゲーテの戀愛（ムメル） 小熊虎之助

彼の日（詩） ゆきを

船室の一夜（小說） 木村幹

譯詩數章（詩） 世良田進

捨てられて（小說） 木村幹

葉太郎（小說） 宮下桂子

蛙（詩） 基樹

夢と戀と（セラオ）

ゴールウエー平原（イエーツ） 萬古刀

■七月一日發行（定價廿五錢）

發行所 東京府下西大久保七十八番地菊池方 自畫像社

發賣所 東京市神田區南神保町十六番地（振替口座東京一九三四四番） 尙文堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

面白一新

創造

內容充實

毎月一回一日發行　七月號　掲載の内容の要目

▲ツルゲネーフの手紙（トルストイに與へたる）　播磨檜吉

△罪人の涙　吉田紘二郎

△過渡期の新代生活　中村孤月

△詩に就ての論　福士幸二郎

△ショルツの詩　茅野蕭々

▲生き者の本能（感想）　清浦明人

▲藝術家の生活（感想）　木村荘八

△清吉の最後　景山哲雄

△神秘こたき火　中村白葉

△近刊三詩集を評す　美川康

△二三の小說に就て　加藤鈴之助

▲毒藥の壺（感想）　相馬御風

發行所　東京市小石川區雜司ケ谷町百卅　創造社　（定價金廿五錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

窪田空穗主宰

國民文學

定價二十錢
郵税壹錢

七月號

表紙意匠
小杉未醒氏

研究

生き甲斐のなき生活と文藝と …… 無名氏
浮世繪の發達と劇との關係 …… 藤懸靜也
文學雜誌の變遷 …… 河井醉茗
川柳の生んだ江戸人の生活 …… 松村英一
ロシヤ小說を讀むに就ての注意 …… 中村白葉
苦んだ人、歌人西行 …… 窪田空穗

創作

巷の女（小說）…… 小川未明
漂浪者の父子（小說）…… 深澤白人
七月（短歌）…… 紫田喜代子
アレキシス（トルストイ）…… 豐島與志雄
除隊の後（評論）…… 白石實三

評論

文壇一般に對して …… 三井甲之
新劇團概觀 …… 桝本清
六月の小說 …… 半田良平
一理想家の覺え書き …… 前田晁
眼前小景 …… 柏樹下人

每號投稿募集

短歌 窪田空穗選
俳句 矢崎奇峰
詩 三木露風選
上田龍耳選

發行所 東京市神田區南神保町十五 國民文學社 振替口座東京二一四四四番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

我等

一部二十五錢　一年分送料共三圓

短歌募集

七月號

誘惑（小説）　萬造寺齊

芝居の夢（歌）　與謝野晶子

木下闇（歌）　原田琴子

雁（小説）　森林太郎

水のあなたより　無名氏

續眞實心經（歌）　吉井勇

グラィンン伯（戯曲）　シユレツトボン　茅野蕭々

東京本郷區林町一九〇
我等發行所

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

七月號

俳味

毎月一回
一日發行

■一口ばなし……沼波瓊音
■出なほし……長尾素枝
■俳句初心傳授……やちまた生
■赤い帯……都田蠻六
■下町より……濱田天果
■父上に……つきのは
■私解芭蕉の發句……沼波瓊音
■俳句、俳歌……諸家
■古今の歌……紀大蘭
■酒竹手記……(故大野酒竹)
■麥水の遺墳
■好きな句……月葉生

附録

■陽炎ふ頭(小説)……岩永敏康
■勝負事(小説)……長尾素枝

◉内容見本御入用の方は往復はがきにて御申込を乞ふ◉

定價	一部廿錢 郵税一錢	三ヶ月分税共 金五十五錢	半年分税共 金一圓	一年分税共 金二圓

發行所 東京本郷西片町十 (振替東京三四三四番) 俳味社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

七月十五日發行

文藝復興

第二號

一部定價金卅錢郵稅一錢半ヶ年前金一圓七十錢一ヶ年金三圓卅錢

網走港　長田幹彥
飢（ハムズン）　小山内薫
耳環　長田秀雄
ロオマン・ロヤラン語錄　中澤臨川
題未定　田山花袋
ハウプトマンへ送る手紙（ブラアム）　小山内薫
未練　吉井勇

トルストイの「闇黑の力」（莫斯科美術座所演）舞臺面四葉

題未定　木下杢太郎
將來の舞踊（ダンカン）　小山内薫
獨逸の諸市及び維納で見た芝居　小山内薫
隨筆　中澤臨川
湘南近事　吉井勇
Apologia　小山内薫

發行所　東京赤坂區田町七ノ十三　文藝復興社

發賣所　東京日本橋本石町三丁目　至誠堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

出版通信

千九百十四年七月一日・東京

■東雲堂出版の圖書總目錄は御申越次第贈呈仕り候■

■生活と藝術 七月號は……

●新作社會劇 純日本式 **藝者屋町**（四幕物） 伊庭孝

を以て全紙を埋め、その他に同人の詩歌を入れます。この新作が劇壇の注意を喚起することは今より疑はありません。定價一冊十八錢、郵稅一錢。

■未來 第二輯

は最も豐富な質量を以て六月十五日書肆の店頭に現れました。未來社同人は自ら新藝術の俠徒を以て任ずるものであります。高級なる、而して摯實なる藝術の歡喜に接せんとする人々の一讀を望みます。定價金六十錢、郵稅八錢。

■三太郎の日記 阿部次郎氏著

は再版を市に送り出しました。この書に觸れる限りの人々はみな著者の誠實さに觸れ、浮薄なる心を振ひ落し、自己に沈潛しやうとするに違ひありません。そして著者と倶に強く生きやうとするに相違ございません。書肆は斯の如き書を日本の思想界に奬め得た事を光榮となす。定價金壹圓、郵稅八錢。

■層雲第一句集 荻原井泉水撰著

いままでの俳句は死物でありました。これからの俳句は我々の俳句でなければなりません。この集の出現が俳壇に革命を齎することを信じて疑ひません。內容は選句、著者の試作、俳話、七月十日發行の豫定。定價七十錢、郵稅八錢。

■未來社主催 リード・アーベント

山田耕作氏 伴奏 貫名美名彦氏

（時日）七月十二日夕七時（日曜日）
（場所）麹町丸の內、保險協會にて
（會費）金壹圓
（申込所）東雲堂書店

出版元■東雲堂 ■東京市日本橋區檜物町九番地 電話本局一八七一●振替五六一四

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

みづゑは本邦最古にして且つ唯一の水彩畫研究の專問雜誌なり

月刊美術雜誌

みづゑ

第百拾參

七月三日發兌

一部金廿五錢

水彩畫を描く人は勿論愛好せらるゝ諸氏は一日も本誌を座右に缺く可からず

□兩國（錦繪原色版）……歌川廣重
□尾ノ道千光寺（水彩畫原版）……中澤弘光
□先年町（同）……相田直彥
□靜物（同）……後藤工志
□ホタルガ應用圖案（水彩畫寫眞版）……織田一磨
□風景（同）……望月省三
□其他水彩畫寫眞版數葉

□霧と雨と雪の美術家……小島烏水
□畫の手帳より……坂本繁次郎
□十八十色……鵜澤四丁
□巴里より……山本鼎
□追憶の傳說……磯萍水
□新三脚物語……鵜澤四丁
□色の話……中村不折
□昆蟲を應用せる圖案……織田一磨
□ミレー傳……武田雨水
□其の折々……後藤工志
□高野物語……佐竹士節
□研究所たより……

發賣所　東京小石川關口駒井町三番　振替口座東京六九三六　春鳥會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

エゴ

第二巻
第七號
七月號

七月一日
發行
定價廿五錢

目次

家出（脚本五幕物）　千家元麿
手紙（感想）　武者小路實篤
苦痛に付いての雜感　岸田劉生
グレコに付いて　佐藤惣之助
存在の惱み（感想）　土屋小介
感想　千家元麿

挿畫目次

グレコの肖像　グレコ
トレドの風景　同
聖ペール（表紙）　同
聖マタイ（裏繪）　同

發行兼編輯所　東京市牛込區新小川町三ノ三一　エゴ社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

近代思想

■第二巻第十號■

■定價金拾錢■

■七　月　號■

■賭博本能論（評論）……大杉榮
■人間の漂流（評論）……和氣律次郎
■題未定（歌）……安成二郎
■胡麻鹽頭（雜錄）……堺利彥
■僧と惡魔（小話）……ダスタエフスキー　和氣律次郎
■謀叛人（小說）……荒畑寒村
■癈兵救慰會（小說）……荒川義英
■大久保より（雜錄）……大杉榮

東京府下大久保町　近代思想社　振替東京三六一七一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

番紅花

"SAHURAN"

七月號

內容

定價一冊
金三十錢
半ケ年
金一圓八十錢
一ケ年
金三圓六十錢

▲ストリンドベルグの元の夫人……小山内薫
▲女優の手紙……松居松葉
▲人形芝居につゐて……小澤愛國
▲オッフエンバフク……原信子
▲忘れてきたシルクバット(戯曲)……森林太郎譯
▲中性論(カーペンタア)……青山菊榮譯
▲盲樂師(コロレンコ)……青山菊榮譯
▲甘き呪(詩)……八木さわ子
▲墺太利の貴婦人(小説)……かみちかいち
▲題未定……尾竹一枝
▲動搖(小説)……管原初子
▲短歌……ふくみ
▲浮世(小説)……小林哥津
▲海外通信……OPQ
▲編輯室にて……同人
▲新刊紹介……

挿畫

▲泰西名女優寫眞十葉

■發行所■ 東雲堂書店 東京市日本橋區物檜町 (振替五六一四番)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

特價三十錢

假面

第三卷 七月號 第七號

郵税金二錢

夏期特別號

□イエエツ グレゴリイ及シンヂ（評論モオア）……西條八十

□悲しき生の自覺（小説）……見留周造

□杼情詩（譯サフオ）……日夏耿之助

□珍朶美尼（印度象徴劇ゴーズ）……松田良四郎

□京の紅京の人形（歌）……安永みち子

□裝飾美術論（評論アイドル）……森田多里

□メレジユフスキーの詩（詩）……松永信

□黎明（小説）……山川亮

□藝術家（小説チエエホフ）……柴田勝衛

假面社編

近代評傳叢書

第一篇 ストリンドベルヒ 加能作次郎

第二篇 ドストエフスキイ 瀬戸義直

久しく期待にそむきたる本書は愈七月一日を以て發賣せらる

定價金五十錢

郵税金六錢

發行所 東京市外西大久保三百十一 假面社

發賣元 東京神田錦町一丁目十九 振替東京四一二三番 中興館

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

心の花

第十八卷　七月號　第七號

日本文明の曙光　杉亭二
ストリンドベルヒ論　吹田芦風
浴槽（小說）　岡部千代子
鍵（小說）　今井康子
闇の精（ペインの印度古詩より）　松村みね子
ひねもすのつこめ　釋宗演
八重雲　石榑千亦
わが歌　三浦守治
薔薇　柳川隆之助
手帳より　服部綾足
欝金香（アルテンベルヒ）　吳野潮音
南獨乙の春の日　長紅雪
新百人一首新釋　志田義秀
萬葉集講義　佐佐木信綱
西片町より　佐佐木雪子

定價一部金二十錢・半年前金一圓・一年前金二圓・稅共

東京日本橋區　竹柏會出版部　本石町一ノ一

電話本局五一七〇番　振替東京四三〇〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■新思潮■

七月號

七月一日發行

■演劇の單純化（評論）……桝本清
■蝕める青春（四幕）……久米正雄
■人形芝居（シモンズ）……半田良平
■未來派と劇場（コリネッチイ）……山本有三
■ブレークの言葉（ブレーク）……山宮允
■桑の實（小説）……井出説太郎
■結婚當夜（喜劇）……小島辰夫
■遍路に序して（感想）……石川幸三郎

發行所 日本橋區本銀町三ノ二 振替東京一二〇五五番 啓成社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

毎月一回
一日發行
一冊金二十五錢
郵税金一錢五厘

斯道唯一の演劇雜誌

歌舞伎

百六十九號（七月一日發行）

六冊前金郵税共
金一圓五十錢
十二冊同上
金二圓八十錢

性格劇から印象劇……小山内薫
舞臺藝術の權力者なるゴォッン・クレエグの新説を紹介す

海老藏の「扇屋熊谷」……中村吉兵エ
菊五郎、吉右衛門の指南番たの老優が故名手の型を詳述す

團十郎と釣……松本幸四郎
恩師の日常生活と其逸事とを語りて天才の俤彷彿たり

戲曲 僧院……森鷗外

『扇屋熊谷』……森ほのほ

京阪歌舞伎年代記（室永正德）……伊原青々園

帝劇と市村座合評 評家七人

『花勝見奧譚』について……山崎紫紅
歌舞伎座一番目の新作史劇につき作者自身の解説是なり

『來山』の說と鳴物……杵屋勝五郎
仁左エ門が歌舞伎座所演の人物につき諸書の記載を收む

脚本『嵐 靜 馬』……川村花菱
元祿の名優坂田藤十郎の技藝觀を中心としたる新戲曲

東京本郷湯島切道坂町書報社内
歌舞伎發行所
電話下谷三四八三 振替口座一八一〇六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

優秀卓越の眞香水
皮膚衛生の最適品

オー、デ、コローン

4711 印に御注意あれ

本品の數滴は著しく皮膚を艶麗にし、日ヤケを絶對に防ぎ、剃刀マケをせず、實に一種言ふべからざる爽快を覺ゆ

運動遊戯の後、又は入浴、洗面、鬚剃、旅行、病室、頭痛の際その一滴は終生忘るべからざる爽快を覺ゆ

▲全國到る處の藥舖及化粧品店にあり

日本總代理店
マーヤ商會
神戸京町六八
横濱山下町二四

N°4711.
Eau de Cologne

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和45年5月30日発行　【第9回配本】

青　鞜　第 4 巻　7月号

編著者	平塚　らいてう
発行者	藤原正人
発行所	(株)明治文献
印刷	江明印刷
製本	(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
PL
756
S45
v.4
no.7

University of Colorado at Bo[redacted]
[redacted]304 6746432

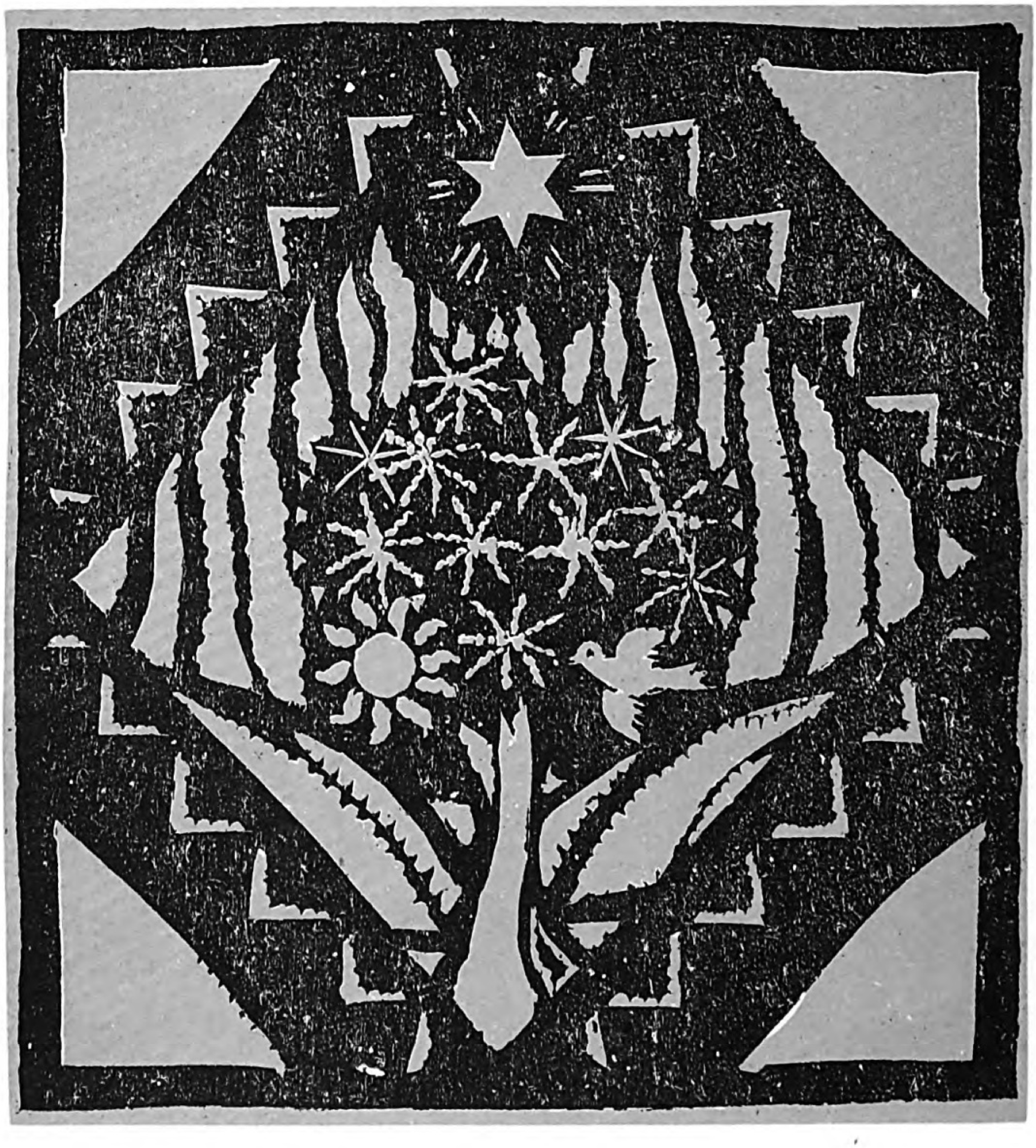
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可　第四巻
大正三年七月一日發行（毎月一回一日發行）　第七號
青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

青鞜



八月號

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可　第四巻
大正三年八月一日發行（毎月一回一日發行）第八號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER